

# 履修の手引き

令和8年度（2026年度）入学生用

## 教育学部

この手引きには、学習の計画を立てるため、そして卒業するために必要な情報がたくさん書かれています。

### 【 内 容 】

- I 科目履修に当たって知っておくべきこと
- II 教養教育について（獣医学部を除く）
- IV 専門教育について【教育学部】
- IX 国際教育科目について
- X その他プログラムについて
- XI 関係法規等

※この手引きを読んで、わからないことがあったら  
学生センターA棟1F窓口にご相談に来てください。  
※この手引きは卒業まで大切に保管してください。



国立大学法人

岩手大学

IWATE UNIVERSITY

令和8年度（2026年度）行事日程

前期	4月	2日（木）		外国人留学生オリエンテーション
		6日（月）		学部新入生学生証等配付
		7日（火）		入学式 編入学生オリエンテーション
		8日（水）		学部新入生オリエンテーション 新入生交流会（新入生歓迎実行委員会主催）
		8日（水）～10日（金）	前期履修申告	
		9日（木）～10日（金）		定期健康診断（学部の令和8年4月入学生） [奨学金]在籍報告 （前年度からJASSO給付奨学金を継続する方）
		中旬		
		14日（火）	授業開始【前期・クォーター（ ）】	
		14日（火）～20日（月）		定期健康診断（学部の令和8年4月入学生以外）
		14日（火）～20日（月）	履修申告訂正	
		30日（木）	水曜授業日	
		5月	8日（金）	月曜授業日
8日（金）～14日（木）	履修申告取消期間			
16日（土）			盛岡・つなぎ間ロードレース大会	
20日（水）			前期授業料口座引落日	
6月	1日（月）		開学記念日	
	8日（月）	クォーター（ ）補講日		
	9日（火）	授業開始【クォーター（ ）】		
7月	19日（金）～25日（木）	クォーター（ ）科目履修申告取消期間		
	21日（火）	月曜授業日		
	29日（水）～8月4日（火）	前期・クォーター（ ）補講日		
8月	中旬		[奨学金]前期授業料免除結果通知	
	7月29日（水）～4日（火）	前期・クォーター（ ）補講日		
	5日（水）～9月30日（水）	夏季休業		
	6日（木）		オープンキャンパス	
9月	8日（土）～17日（月）		全学一斉休業（閉庁）	
	8月5日（水）～30日（水）	夏季休業		
	18日（金）	前期成績発表		
後期	10月	25日（金）		9月卒業式
		29日（火）～10月1日（木）	後期履修申告	
		9月29日（火）～1日（木）	後期履修申告	
		1日（木）		10月入学式
		5日（月）	授業開始【後期・クォーター（ ）】	
		5日（月）～9日（金）	履修申告訂正	
	11月	16日（金）	全学休講	
		17日（土）～18日（日）		大学祭
		20日（火）～26日（月）	履修申告取消期間	
	12月	18日（水）	金曜授業日	
		19日（木）	全学休講	
		20日（金）	全学休講	[入試]学校推薦型選抜 後期授業料口座引落日
1日（火）		クォーター（ ）補講日		
2日（水）		授業開始【クォーター（ ）】		
中旬			[奨学金]後期授業料免除結果通知	
1月	中下旬		[奨学金]継続願 （次年度もJASSO賞与奨学金を継続する方）	
	14日（月）～18日（金）	クォーター（ ）科目履修申告取消期間		
	23日（水）～1月4日（月）	冬季休業		
	28日（月）～1月3日（日）		全学一斉休業（年末年始休業）	
	12月23日（水）～4日（月）	冬季休業		
2月	12月28日（月）～3日（日）		全学一斉休業（年末年始休業）	
	12日（火）	月曜授業日		
	13日（水）	金曜授業日		
	14日（木）～15日（金）	全学休講		
3月	16日（土）～17日（日）		大学入学共通テスト	
	5日（金）～12日（金）	後期・クォーター（ ）補講日		
	12日（金）	木曜授業日（補講日）		
3月	19日（金）～24日（水）		入試準備日	
	25日（木）～26日（金）		[入試]一般選抜（前期）	
	9日（火）～11日（木）		入試準備日	
	12日（金）		[入試]一般選抜（後期）	
3月	19日（金）	後期成績発表		
	23日（火）		卒業式	
	24日（水）～31日（水）	春季休業		

上記の日程は変更になる場合があります。日程の変更及び令和9年度以降の日程は、アイアシスタントでお知らせします。

試験期間は特に設けませんので、試験については授業担当教員の指示に従ってください。

以下の日は、事務窓口が開いていないため事務手続き等（証明書自動発行含む）は行えません。

土曜日、日曜日、祝日（授業実施日含む）、全学一斉休業日及び入試等により入構できない日

# 目次

令和8年度（2026年度）行事日程

## 科目履修に当たって知っておくべきこと

1 大学の目的・教育目標	- 1
2 学期区分	- 1
3 本学の履修科目及び履修時期	- 2
4 授業科目の単位	- 3
5 成績評価	- 4
6 授業時間	- 4
7 時間割表の見方	- 4
8 総合学修支援システム	- 5
9 履修の申告	- 5
10 履修科目登録単位の上限	- 6
11 他学部開講科目の履修	- 6
12 他大学の授業科目履修における単位認定	- 7
13 放送大学の授業科目履修における単位認定	- 8
14 資格試験等による単位認定	- 9
15 ボランティア活動による単位認定	- 10
16 試験	- 10
17 成績評価に異議がある場合の問い合わせ	- 11
18 成績優秀者	- 11
19 卒業時に授与される学位	- 12
20 3年以上4年未満での卒業（早期卒業）	- 12
21 長期履修学生制度	- 12
22 転学部制度	- 12
23 転学科・転課程制度	- 13
24 学部3年次修了者の本学大学院への入学	- 13
25 その他	- 13
参考 学生の修得すべき単位数	- 14
学籍番号	- 14
用語集	- 15
I <sup>n</sup> Assistant2.0 & WebClass & I <sup>n</sup> Folio	- 16

## 教養教育について（獣医学部を除く）

1 教養教育の理念	- 1
2 教養教育の教育目的と修得すべき能力	- 1
3 履修方法及び開設授業科目	- 6
4 選択について	- 10
参考 開設授業科目要件区分 / 標準履修学年・時期早見表	- 11
5 各学部の履修単位数及び履修方法	
教育学部	- 15

履修の手引きの訂正等は、アイアシスタントや掲示版でお知らせします。

## 専門教育について 【教育学部】

---

1 教育学部の理念と目的, 学位授与の方針, 教育課程規則, 課程等の紹介 . . . . .	- 1
2 教育学部の専門教育科目卒業要件 . . . . .	- 8
3 授業科目及び履修年次 . . . . .	- 2 3
4 副免及びその他の教員免許の取り方について . . . . .	- 4 3
5 日本語教育副専攻科目について . . . . .	- 6 6

## 国際教育科目について

---

1 国際教育科目の理念と教育目標 . . . . .	- 1
2 履修方法および開設授業科目 . . . . .	- 3

## その他プログラムについて

---

1 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	X- 1
2 IHATOVグローバルコースについて	X- 2
3 イーハトーヴ協創コースについて	X- 4

## 関係法規等

---

- 1 岩手大学諸規則
- 2 関係法令

# 科目履修に当たって 知っておくべきこと

## 科目履修に当たって知っておくべきこと

### 1 大学の目的・教育目標

本学は、国立大学法人岩手大学学則において、次のことを「大学の目的」として掲げています。

真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを旨すとともに、地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会と国際社会の文化の向上と発展に貢献することを目的とする。

また、本学では教養教育と専門教育の調和を基本として、次のような資質・能力を兼ね備えた人材の育成を「教育目標」としてしています。

- (1) 幅広く深い教養と総合的な判断力を合わせ持つ豊かな人間性
- (2) 基礎的な学問的素養に裏打ちされた専門的能力
- (3) 環境問題をはじめとする複合的な人類的諸課題に対する基礎的な理解力
- (4) 地域に対する理解とグローバル化に見合う国際理解力
- (5) 柔軟な課題探求能力と高い倫理性

本学の学生の皆さんは、大学の目的・教育目標に基づき、それぞれ人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部、獣医学部に入学し、卒業するまでの4年間（獣医学部は6年間）に教養教育科目（獣医学部は共通教育科目）及び専門教育科目を履修し所定の単位を修得しなければなりません。

卒業に要する最低修得単位数は、教養教育科目が28単位、共通教育科目が30単位、専門教育科目が98～159単位です。

また、教育学部学校教育教員養成課程以外の学科・課程の学生が教育職員免許状を取得しようとする場合は、さらに教職教育科目を履修する必要があります。

獣医学部では教育職員免許状を取得することはできません。

なお、履修は全て単位制をとり、履修すべき授業科目については大幅に選択制がとられています。したがって、履修科目は、同じ学部・学科・課程であっても各人により異なる部分があります。

この複雑な科目履修制度をできるだけ早く理解し、目的が達せられる計画を立ててください。

ただし、本書の中では一般的な説明が主であるため、細部についてはクラス担任教員や教務担当教員などの指導を受けながら学修内容の全体をよく研究し、学修計画を立てるようにしてください。

### 2 学期区分

1年間を前期、後期の2期に分け、前期は4月1日～9月30日、後期は10月1日～3月31日となっています。（学則第32条）

### 3 本学の履修科目及び履修時期

---

本学の履修科目は、大別すると次のとおりです。

・ **教養教育科目**（技法知科目、学問知科目、探究知科目、実践知科目）

教養教育科目は1年次に多く開設しており、2年次、3年次と学年が進むにつれて履修する機会が減少しますので、低年次のうちに修得しておくことが推奨されます。

科目等の詳細については「[教養教育について](#)」を参照してください。

・ **共通教育科目**

共通教育科目は獣医学部のみ開設しています。

科目等の詳細については「[獣医学部について](#)」を参照してください。

・ **専門教育科目**

専門教育科目は各学部で開設しており、1年次には少なく、2年次、3年次と学年が進むにつれて増加します。科目等の詳細については各学部の項を参照してください。

・ **教職教育科目**

各学部（獣医学部を除く）で開設しており1～4年次で履修します。

履修方法は「[教育職員免許状・各種資格の取得方法](#)」を参照してください。

・ **国際教育科目**

国際教育科目は、外国人留学生を対象に英語で授業を行う科目ですが、日本人学生も履修することができます。詳細は「[国際教育科目について](#)」を参照してください。

## 4 授業科目の単位

大学では、授業と、授業時間外における学習（以下、授業外学修）を所定の時間満たすことで単位が認定されます。

端的には、高等学校では授業時間 = 単位でしたが、大学では授業 + 授業時間外の学習 = 単位となります。この授業時間外の単位認定に関わる学習のことを授業外学修と言います。

各科目の単位と必要な学修時間は、授業の種別によって以下の通り定められています。

	種別	授業 (分)	回数	単位	授業外学修 (時間)
教養教育科目 共通教育科目 (獣医学部)	外国語 健康・スポーツ 実習、演習	100	14	1	15
	実験	150	14	1	0
	講義	100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	実験、実習、実技など	100	14	1	15
		150	14	1	0
		150	28	2	0
		150	42	3	0
		300	7	1	0
	演習	100	7	1	30
		100	14	1	15
		100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	講義	100	7	1	30
	(グループワークなどが行 われることもあります)	100	14	2	60
専門教育科目 (獣医学部)	実習	135	15	1	0
		135	45	3	0
	講義	45	15	1	30
		(グループワークなどが 行われることもあります)	90	15	2

### 解説

例えば、教養教育科目の「外国語」は100分の授業が14回で1単位となり、授業以外に計15時間の授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）が必要になります。また、講義で14回2単位の科目は、授業以外に60時間の授業外学修が必要になります。

### 授業外学修時間の算出

大学設置基準第21条第2項により45時間の学修で1単位と規定されていることから、単位に応じて授業で不足する時間により授業外学修時間が得られます。本学では授業45分を1単位時間として計算し、標準的な90分（2単位時間）×15回＝1350分（30単位時間）を、100分×14回＝1400分で30単位時間と見なします。2単位科目は90時間の学修を必要としますので、授業時間の30単位時間を引いた残り60時間が授業外学修時間となります。

なお、獣医学部は90分（2単位時間）×15回で30単位時間と見なします。

## 5 成績評価

成績の評価方法は、試験、報告書、論文及び平常の成績（授業への参加度等）によって行われます。（学則第40条第2項）

成績の評価は、次のとおりです。

評 価		評 点
合格	秀	100点～90点
	優	89点～80点
	良	79点～70点
	可	69点～60点
不合格	不可	59点～0点

なお、各科目の到達目標、具体的な成績の評価方法及び基準はシラバス（講義要目）に掲載されています。

## 6 授業時間

時限	1	2	3	4	5	6
時間	8:35～10:15	10:30～12:10	13:00～14:40	14:55～16:35	16:50～18:30	18:40～20:20

### 【獣医学部専門教育科目】

校時	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12
時間	8:40～10:10 (8:45～10:15)*	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:10～19:40

注（ ）\*の時間は遠隔講義の時のみ

## 7 時間割表の見方

### （1）教養教育科目

教養教育科目の授業時間割表を熟読し、履修してください。

1年次においては、所属学部学科及び課程毎に履修できる授業科目が指定されていますので、必ずその枠内で履修してください。指定された枠組で履修すれば2年間で教養教育科目の履修すべき単位数を修得できるよう設計されています。

履修申告者が多い場合は、履修を制限する場合があります。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口にお問い合わせください。

### （2）獣医学部共通教育科目

獣医学部の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口にお問い合わせください。

### （3）専門教育科目

所属学部毎に異なりますので、各学部の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口または 番窓口にお問い合わせください。

## 8 総合学修支援システム

本学では、大学での学修を支援するためのさまざまなシステムを利用しています。  
(詳細は「[I<sup>n</sup> Assistant2.0 & WebClass & I<sup>n</sup> Folio \(アイアシスタント2.0 & ウェブクラス&アイフォリオ\)](#)」( - 16 ページ)を参照)

## 9 履修の申告

学期の初めには、必ず履修申告期間内に履修申告(授業科目の登録)をしなければなりません。申告をしないと授業を受けることができず、単位の修得もできません。忘れずに、必ず履修申告をしてください。

また、集中講義科目の中には、学期の途中に履修申告期間を設定する場合があります。その場合、履修申告の日程等はアイアシスタント等でお知らせします。

なお、前期は5月中旬、後期は10月下旬(学年暦参照)に履修申告をした科目を取り消すことができます(ただし、集中講義科目は原則開講日の2週間前まで)。詳細はアイアシスタント等でお知らせしますが、あくまでも取り消すだけで、他の科目へ変更することはできません。

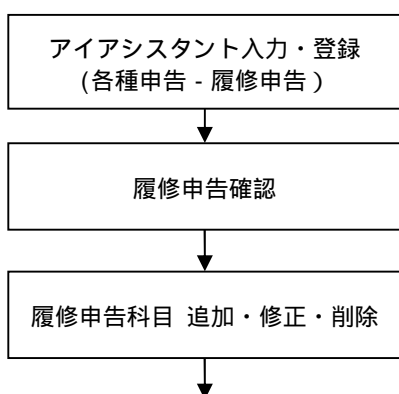
### (1) 履修申告する際の注意事項

- ・「授業時間割」、「シラバス(講義要目)」、「履修の手引き」により、履修したい授業科目が自分の学部・学科(課程)・学年の受講対象となっているかよく確認してください。
- ・履修申告する際は、「授業時間割」に記載されている時間割コード(アルファベットと数字の6桁)を、正しく入力しているかよく確認してください。
- ・同じ授業科目でも、担当する教員によって時間割コードが違います。担当教員名を確認してください。
- ・同一時間に複数の授業科目を重複申告することはできません。
- ・履修登録できる単位数に上限があります。上限は、1学期につき24単位(編入学生及び成績優秀者は28単位)までです。詳細は、「[10 履修科目登録単位の上限\(CAP制\)](#)」を参照してください。

### (2) 履修申告方法

- ・履修申告は、アイアシスタントから行ってください。
- ・集中講義は開講の都度、履修申告を行います。申告方法は掲示でお知らせします。

アイアシスタントから履修申告(集中講義の申告はできません。)

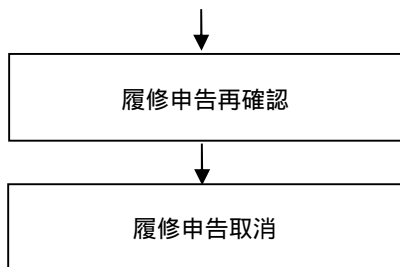


授業時間割表に基づいて、各自で履修計画を立て、**上限単位数を超えないように、履修する全科目をアイアシスタントにある各種申告の履修申告から入力してください。**

履修申告結果は、指定された日にアイアシスタントのMy時間割に表示されます。

各自で「**時限(校時)・科目名・時間割コード**」などが正確に登録されているかを必ず確認してください。

履修申告エラーがあった場合、または科目を追加・修正・削除したい場合には、指定された日までに、再度アイアシスタントにより、履修申告を訂正してください。



指定された日以降は、訂正できません。なお、履修申告の取消しは後述のとおりです。

履修申告結果をアイアシスタントで必ず確認してください。

学修上の理由で履修申告を取消したい場合、指定された履修取消期間に限りアイアシスタントより履修申告を取り消すことができます。

## 10 履修科目登録単位の上限（CAP制）

授業科目は、1単位当たり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする（学則第38条）とされています。

そのため、授業のみならず授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）の時間も加味した、無理のない学修計画を立てる必要があります。

本学では、学生が1学期間に履修登録できる単位数を次のとおり定めています。

（関係法規等「岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則」参照）

- ・履修登録単位数の上限は、1学期につき24単位までとする。
- ・履修登録単位数の上限の対象科目は、「卒業要件科目」とする。  
ただし、卒業要件科目のうち、「集中講義の授業科目」、「教育実習」、「卒業・特別研究」、「いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換科目」、「放送大学における単位互換科目」は対象から除外する。
- ・教育学部学生の履修登録単位数の上限は、1学期につき28単位までになる場合がある。（-21ページを参照）
- ・成績優秀者及び編入学生の履修登録単位数は、1学期につき28単位を上限とする。（成績優秀者については「18 成績優秀者」を参照）
- ・教育職員免許取得希望者（教育学部学生を除く）が履修する教科に関する科目、教職に関する科目及び教科の指導法に関する科目（参照）の登録単位数の上限は、「卒業要件科目」と合わせて1学期につき28単位までとする。ただしこの場合でも、「卒業要件科目」の登録単位数の上限は1学期につき24単位までとする。

## 11 他学部開講科目の履修

本学では、自分の所属する学部の専門教育科目だけでなく、他学部の専門教育科目についても、一定の条件のもと、その講義を受講し単位を修得することができます。修得した単位については、学部、学科・課程ごとに定める範囲で卒業に必要な単位として認定することができます。

他学部の学生が受講可能な授業科目や受講の条件等については、別途お知らせしますので、アイアシスタント等からのお知らせに注意してください。

## 1 2 他大学の授業科目履修における単位認定

本学では、多様な授業を受けられるよう他大学と単位互換に関する協定を結びました。講義を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続きが必要ですので、その都度、アイアシスタント等でお知らせします。

区分		いわて高等教育コンソーシアム
協定校		岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、岩手保健医療大学、一関工業高等専門学校
身分		特別聴講学生
授業料等		入学料、授業料、検定料は無料 ただし、追・再試験の検定料は受講大学によっては必要な場合があります。
開講科目		開講校が許可した科目を受講することができます。詳細は、いわて高等教育コンソーシアムの「単位互換」ページで確認してください。
出願期間		前期：4月上旬 後期：7月上旬～8月下旬
卒業単位上限	教養教育科目	教養教育科目の選択の単位として認定します。 (獣医学部の共通教育科目は該当しません。) 人文社会科学部： 4単位まで 教育学部： 2単位まで 理工学部： 4単位まで 農学部： 4単位まで
	専門教育科目	学部によって自由選択科目または選択科目の単位として認められます。 詳細は、～の各学部専門教育のページを参照してください。

上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

### 1 3 放送大学の授業科目履修における単位認定

本学と放送大学は単位互換に関する協定を結び、放送大学の科目を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続きが必要ですので、その都度、アイアシスタント等でお知らせします。

身分	特別聴講学生	
授業料等	1科目(2単位) 12,000円 授業料は改定される場合があります。	
開講科目	出願期間前に「開講科目一覧表」を掲示または配付します。	
出願期間	第1学期：1月中旬 第2学期：7月中旬	
卒業単 位上限	教養教育科目	単位互換できる科目は出願期間時にお知らせします。 ただし、単位互換科目は、教養教育科目及び専門教育科目両方合わせて30単位までです。
	専門教育科目	

この単位認定制度を利用するには、岩手大学を通して放送大学に特別聴講学生として入学する必要があります。

上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

放送大学の特別聴講学生は、テレビ(BS放送)やインターネットで配信される映像・音声の視聴または、本学の附属図書館内にある「放送大学岩手学習センター」において、DVDを視聴しての受講となります。

また、単位互換制度とは別に、放送大学の教材を利用して授業を開講する場合があります。この科目を受講するための授業料は無料ですが、受講する場合には、履修科目登録単位の上限に含まれます。開講については、アイアシスタント等でお知らせします。

## 1 4 資格試験による単位認定

本学では、資格試験で資格を取得又は一定以上の点数を得点した場合は、申請に基づき単位の認定を行います。単位が認定される資格等の種類、単位数は、下記の表のとおりです。

申請は、学生センター A 棟 番窓口で年 2 回（1 月、7 月）受け付けます。  
詳しくはアイアシスタント等でお知らせします。

資格試験	資格	認定科目・単位数		認定単位数の上限	備考
		授業科目	単位		
英検 S - C B T	準 1 級		4	4	最も上級の資格により認定する。
実用英語技能検定試験	準 1 級	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	4	4	
	1 級		8	8	
TOEFL (マークシート式677点満点)	500～539点		2	2	
	540点以上	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	4	4	
TOEFL iBT (インターネット式120点満点)	61～75点		2	2	
	76点以上		4	4	
TOEIC	600～699点	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	2	2	
	700点以上		4	4	
ドイツ語技能検定試験	4 級	初級ドイツ語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級ドイツ語(入門・発展)	4	6	
		中級ドイツ語	2		
実用フランス語技能検定試験	5 級	初級フランス語(入門・発展)	2	2	
	4 級	初級フランス語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級フランス語(入門・発展)	4	6	
		中級フランス語	2		
ロシア語能力検定試験	4 級	初級ロシア語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級ロシア語(入門・発展)	4	6	
		中級ロシア語	2		
HSK (漢語水平考試) HSK IBT (HSK ネット試験)	2 級	初級中国語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級中国語(入門・発展)	4	6	
		中級中国語	2		
韓国語能力試験	TOPIK (1級～2級140点以上)	初級韓国語(入門・発展)	4	4	
	TOPIK (3級～6級120点以上)	初級韓国語(入門・発展)	4	6	
		中級韓国語	2		
「ハングル」能力検定試験	5 級	初級韓国語(入門・発展)	4	4	
	IBT 5 級				
	4 級以上	初級韓国語(入門・発展)	4	6	
	中級韓国語	2			

### 備考

- 1 認定した単位の評価は、「合」とする。
- 2 申請できる資格試験は、入学後に取得したもので、取得した日から1年以内のものに限る。
- 3 英語科目又はその他の外国語の資格試験において、先に下級の資格で認定を受けた者が、後に上級の資格を取得し願ひ出た場合は、先に認定を受けた単位数を差し引いて単位を認定する。なお、同一言語で複数の資格試験がある場合は、認定単位数の上限が高いほうを上級とみなす。
- 4 「再履修学生」とは、一度でも初級(入門)あるいは初級(発展)を履修した学生をいう。
- 5 TOEFL と TOEIC に関しては、TOEFL - I T P と TOEIC - I P も資格試験の対象とする。

資格試験による単位認定は、履修申告し受講している(した)授業の代わりになるものではありません。よって資格試験による単位認定により、履修申告した科目が自動的に取り消されたり、既に受講した授業の評価が更新されることはありません。

## 1 5 ボランティア活動による単位認定

本学の学内ボランティア活動で、一定時間数以上の研修、活動参加後、レポートを提出し、その活動が認定された場合は、「コミュニティーサポート実習」1単位が認定されます(各年度1単位までとし、最大2単位まで認定されます)。ただし、卒業要件単位には含まれません。

## 1 6 試 験

### 試験時における不正行為

試験において不正行為をすることは、真摯な態度で勉学に励むべき学生として許されない行為といえます。したがって、不正行為を行った者は、訓告処分を受けるだけでなく、不正行為が教養教育科目において行われたか専門教育科目において行われたかを問わず、当該学期の教養教育科目と専門教育科目の**全ての単位が認められません。**

また、通年科目については、不正行為が行われた学期・科目を問わず、当該年度の全ての単位が認められません。

不正行為を行った場合は、留年につながる厳しい処分が科せられます。

### 1 . 教養教育

試験期間は特に設けませんので、試験については担当教員の指示に従ってください。なお、試験当日の授業回は試験のみではなく、試験と併せて授業(振り返り等)が行われます。

#### (1) 試験についての注意事項

受験に際しては学生証を必ず持参し、机の上に置くこと。

万一学生証を忘れたときには、仮受験証での受験が認められるが、その場合には試験終了後3日以内に学生センターA棟 番窓口以学生証を持参して確認を受けること。これを怠った場合には、その答案は、無効となる。

原則として、遅刻は認められない。ただし、特別の事情があった場合には、10分程度の遅刻は考慮されることがある。

試験開始後20分間、退室は認められない。

答案用紙の姓名は、インク又はボールペン書きとする。

試験中、机の中には一切持ち物を置かないこと。なお、不正行為の材料となり得る物を持っていたり、机の中に入れていた場合には、それを使用したか否かにかかわらず、不正行為と見なされる。

試験中、不正行為を行った者は、厳しい処分を受ける。

試験中、監督者の指示に従わない者は、退室を命じられる。

申告しない又は正しい申告をしていない科目を受験しても、その答案は無効である。

## (2) 追試験について

下記事項に該当する者で追試験を希望する者は、試験終了後、1週間以内に必要書類を添えて学生センターA棟 番窓口に願い出ることができます。

負傷又は疾病 (必要添付書類...医師の診断書等)

天災その他突発事故 (必要書類...その事由を証明する物)

忌引き (必要書類...死亡診断書の写し等)

列車等の遅延 (必要書類...遅延証明書)

その他特別に事情があると認められる場合(必要書類...その事由を証明する物)

願い出のあった者に対しては追試験受験願の理由が正当であり、かつ平素の出席状況が良好であって受験の資格があると認められた者に限り受験を許可します。

## 2. 専門教育

専門教育科目の試験についても、教養教育科目と同様に試験が実施されます。詳細は、担当教員の指示に従ってください。

## 1.7 成績評価に異議がある場合の問い合わせ

---

学期末(成績発表時)にアイフォリオで確認した成績評価が、シラバス(講義要目)の成績評価基準と照らし合わせた結果、成績評価に不明な点がある場合は、学務課経由で授業担当教員に問い合わせを行うことができます。問い合わせは、成績発表後一定の期間を設けますが、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

## 1.8 成績優秀者

---

成績優秀者とは、その学期において卒業要件科目を18単位以上修得し、かつ、卒業要件科目の総修得単位数のうち、「秀」および「優」の評語を単位数の点で10分の9以上得て、成績優秀者と認定された者をいいます。

成績優秀者に認定されると、次の学期の履修は、履修科目の登録の上限(1学期24単位)の例外として、28単位まで登録することができます。

なお、編入生の履修科目の登録の上限は、28単位ですので優秀者判定は行いません。

また、2年次後期までの全学期に成績優秀者として認定されると、早期卒業の申請をすることができます。(「2013年以上4年未満での卒業(早期卒業)」を参照)

## 1 9 卒業時に授与される学位

本学に4年以上(獣医学部は6年以上)在学し、かつ所定の科目の単位を修得した者に対し教授会の議を経て卒業を認定します。

卒業を認定された者には、次の学士の学位が授与されます。

人文社会科学部卒業生		学士(総合科学)	
教育学部卒業生		学士(教育)	
理工学部卒業生	理工学科	化学コース 数理・物理コース 材料科学コース	学士(理工学)
		知能情報コース クリエイティブ情報コース	学士(情報学)
		電気電子・情報通信コース 機械知能航空コース 社会基盤・環境工学コース	学士(工学)
農学部卒業生	食料農学科 生命科学科 地域環境科学科 動物科学・水産科学科	学士(農学)	
獣医学部卒業生	共同獣医学科	学士(獣医学)	

## 2 0 3年以上4年未満での卒業(早期卒業)

2年次後期までの全学期に成績優秀者(「1 8 成績優秀者」を参照)として認定された者で、4年未満の在学で卒業を希望する者は早期卒業を申請することができます。

申請が認められ、早期卒業候補者となった後も成績優秀であり、卒業要件の全単位を満たし、卒業研究(最終試験を含む。)の成績が秀または優であるときは、3年次終了時又は4年次前期終了時に卒業することができます。(関係法規等「岩手大学における在学期間の特例に関する規則」を参照)

この制度で卒業が認められると、学士の学位が授与され、大学卒業の資格が得られます。

### 2 1 長期履修学生制度 獣医学部の学生は対象になりません

職業を有している等の事情により修業年限の4年間での卒業が困難な場合は、この制度に基づき申請し、許可された者に限り、一定の期間(最長6年まで)にわたり履修して卒業することができます。授業料は、修業年限の4年間分を許可された長期履修の期間に合わせて支払うことになります。

希望する場合は学生センターA棟 番窓口に申し出てください。

(申請時期: 2月末日又は8月末日まで 対象: 1~3年次まで)

### 2 2 転学部制度

入学後に他学部に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学部が認められる(許可される)場合があります。

申請の時期、方法については、アイアシスタント等でお知らせします。

## 2 3 転学科・転課程制度

---

入学後に他学科又は他課程に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学科又は転課程が認められる（許可される）場合があります。

申請の時期、方法については、アイアシスタント等でお知らせします。

## 2 4 学部3年次修了者の本学大学院への入学

---

大学に3年以上在学し所定の単位を優れた成績をもって修得する見込みのある者で、本学の大学院の研究科で受験資格を有すると認められた者は、出願し受験することができます。

これは、研究者として優れた資質を有する者に対して、早期から大学院教育を実施することを目的としているための制度です。

出願に当たっては、指導教員あるいは関係教員と十分相談のうえ決定するのが望ましいです。

（注意事項）

本出願資格により入学する場合は、学部学生の身分を有することはできず、退学して大学院に入学することとなります。したがって、大学学部卒業を要件としている各種の国家試験等の資格試験は、受験できなくなります。

## 2 5 その他

---

### （1）大学からの連絡・案内

大学から学生に対する連絡（例えば公示・通知・呼び出し・授業時間割・休講・試験日程あるいは奨学金・授業料免除の申請期日など）は、アイアシスタントや大学構内に設置している掲示板でお知らせします。

そのため、毎日一度はアイアシスタントと掲示板を見るように心がけ、見なかったり、見落としたために、不利益を受けないよう注意してください。掲示板の場所は、『学生生活の手引き』で確認してください。

### （2）気象警報等の発令時における授業等の取扱い

気象警報（暴風警報及び暴風雪警報に限ります。）又は特別警報が発令された場合、本学学生の安全確保のために、授業の休講及び課外活動等が休止となることがあります。詳細については、関係法規等「気象警報等の発令時における授業等の取扱いに関する申合せ」を確認してください。

< 参考 >

\* 学生の修得すべき単位数 (詳細は、教養教育 (共通教育)、各専門教育のページを参照) (単位)

学 部	学科・課程	コ ー ス	教養教育 科目	共通教育 科目	専門教育 科目	合 計
人文社会科学部	人間文化課程		28		98	126
	地域政策課程					
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	28		109~ 118	137~ 146
		中学校教育コース			106~ 115	134~ 143
		理数教育コース			109~ 111	137~ 139
		特別支援教育コース			107	135
理工学部	理工学科		28		99	127
農学部	食料農学科		28		98	126
	生命科学科					
	地域環境科学科					
	動物科学・水産科学科					
獣医学部	共同獣医学科			30	159	189

\* 学籍番号

学籍番号は在学中のすべての提出書類に記載する8桁の番号であり、次表によって定められています。学籍番号を記入する際には、必ず学生証で確認してください。

* 学部学科等 (3桁)	* 入学年度 (2桁)	* 通番 (3桁)
人文社会科学部 H01 人間文化課程 H02 地域政策課程 教育学部 E01 学校教育教員養成課程小学校教育コース E02 学校教育教員養成課程中学校教育コース E03 学校教育教員養成課程理数教育コース E04 学校教育教員養成課程特別支援教育コース 理工学部 SB1 理工学科 農学部 AB1 食料農学科農学コース AB2 食料農学科食品健康科学コース AB3 生命科学科分子生物機能学コース AB4 生命科学科分子生命医科学コース AB5 地域環境科学科革新農業コース AB6 地域環境科学科森林科学コース AB7 動物科学・水産科学科動物科学コース AB8 動物科学・水産科学科水産システム学コース 獣医学部 VB1 共同獣医学科	入学年度の西暦下2桁となります。 例：2026年入学 = 26  編入学生は、編入した学年の入学年度の西暦下2桁となります。 例：3年次編入生 = 24	個人を特定する番号で3桁となります。  例： 1番 = 001 10番 = 010

(例)

「2026年度入学 食料農学科農学コース99番」の学生の場合は、「AB126099」であり、分解すると、「AB1 = 学部学科等・26 = 入学年度・099 = 通番」となります。

## 科目を履修する際によく出てくる用語です。覚えておきましょう。

### アイアシスタント

インターネットを利用した岩手大学の学修支援システムのひとつです。シラバスの検索・閲覧、履修申告の登録、休講・補講・教室変更の確認などができます。

このほか地震等の災害時に緊急連絡による安否確認が行われます。

### インターンシップ

職場の監督下での一定期間の職業経験のことです。学生の専攻分野に関連した業務に関わるものか否か、フルタイムかパートタイムか、有給か無給か、短時間が長期間かなど形態は様々ですが、キャリア意識の涵養、職業的スキル・態度・知識の獲得を目的に実施されています。

### CAP制(キャップ制)

履修登録科目数上限制度のことです。授業外学修時間の確保のため、各学生が一学期に履修を申告できる総単位数に上限を設定しています。成績優秀者及び編入学生に対しては、より多くの科目の履修が認められます。(詳しくは -6 ページを参照)

### いわて高等教育コンソーシアム

いわて高等教育コンソーシアムは、岩手県内の大学等高等教育機関が連携して、県内の高等教育・学術研究の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とした組織体であり、岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校、及び岩手保健医療大学で構成し、学生は他校の授業を受講し単位を修得したり、図書館を利用することができます。

### 集中講義

通常の授業とは別に、特定の期間に集中して行う授業です。休日や夏季・冬季休業中に行うこともあります。履修申告の方法は、その都度アイアシスタント等でお知らせします。

### シラバス

各授業科目の概要のことです。授業の目的や各回の授業内容、成績評価の基準や方法、教科書・参考書、教員への相談方法等が記載されています。シラバスはアイアシスタントから見るすることができます。

### GPA(ジー・ピー・エー: Grade Point Average)

個々の学生の学業成績を数値化したものです。岩手大学では、各授業科目の履修単位数に成績評価によるポイント(秀 = 4、優 = 3、良 = 2、可 = 1、不可 = 0)を掛けた数字の合計を、履修した単位数で割って算出した値をGPAとしています。

#### 【本学のGPA算出方法】

$$GPA = \frac{\text{「秀」単位数} \times 4 + \text{「優」単位数} \times 3 + \text{「良」単位数} \times 2 + \text{「可」単位数} \times 1 + \text{「不可」単位数} \times 0}{\text{「秀」単位数} + \text{「優」単位数} + \text{「良」単位数} + \text{「可」単位数} + \text{「不可」単位数}} \quad (1)$$

(1)は履修単位数×成績評価によるポイントの合計、(2)は履修単位数

上記の計算式の対象となる授業科目は卒業要件単位に算入される授業科目です。ただし、成績評価がないもの(「合」など)、「保留」となっているものは含まれません。

なお、不可だった授業科目を再度履修して単位修得した場合、再履修による結果でGPAを算出します(再履修による単位修得後は、不可だった初回の履修単位数は分母から除かれます)。

### JABEE(ジャビー: Japan Accreditation Board for Engineering Education)

大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを、日本技術者教育認定機構が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定制度のことです。

### ポートフォリオ

学生の学修成果を集め、ファイル等にまとめたもののことです。テストやレポートのみならず、学生の書いた図画や、活動中の写真なども含まれます。本学ではアイフォリオと呼ばれるWEB上でのポートフォリオを使用しています。

### 履修取消制度

履修登録期間を過ぎた後に、学修上の理由で履修登録を取消したい場合、指定された履修取消期間にアイアシスタントより取り消す制度のことです。取消ができない科目もありますので、アイアシスタント等でよく確認してください。

履修取消の手続きをせずに、履修登録した科目を受講しなかった場合は、その科目の評価が「不可」となり、「GPA算定」や「成績優秀者」判定に影響します。

# I<sup>n</sup> Assistant2.0 & WebClass & I<sup>n</sup> Folio (アイアシスタント 2.0&ウェブクラス&アイフォリオ)

## 1. I<sup>n</sup> Assistant2.0 (アイアシスタント 2.0)

I<sup>n</sup> Assistant2.0 (以下「アイアシスタント」という。)は、皆さんの学修を支援するためのシステムです。授業に関するお知らせや大学からの重要なお知らせ、シラバスの確認、履修申告等の様々な機能を有しています。また、WebClass や I<sup>n</sup> Folio を利用するための入り口となります。

大学生活に必要なシステムですので、毎日(逐次)利用するようにしてください。

### <システムのインストール>

スマートフォン等に「アイアシスタント」アプリをインストールしてください。

[iphone 等版 \(App Store\)](#)



[Android 版 \(Google Play\)](#)



アプリを利用できない場合は、Web ブラウザ版 (<https://ia2.iwate-u.ac.jp>) を利用してください。ただし、Web ブラウザ版にはプッシュ通知で各種お知らせを受け取る機能はありません。

### <ログイン>

ログイン画面で「ログイン名」、「パスワード」を入力し、ログインボタンをタップ(初回のみ)してください。

ログイン名は、大学のメールアドレスになります。入学時に、メールアドレスとパスワードが配付されます。

これは、大学の端末室(パソコン教室)のパソコンを使う時のユーザ名、パスワードと同じになります。

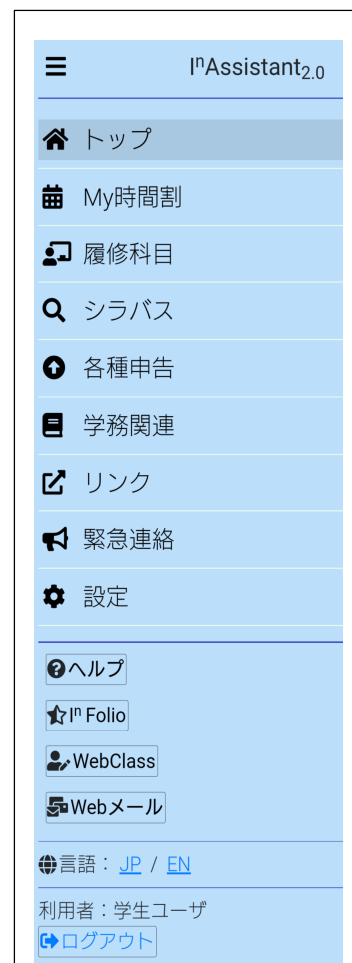
万が一パスワードを忘れてしまった場合は、情報基盤センターに相談してください。

### <トップ>

ログインすると、個人専用のトップページが表示されます。

学務関連新着情報には、履修関係(休講、補講、教室変更、その他)、学務部からの各種お知らせ、呼び出しの情報が届きます。また、重要なお知らせや緊急時のお知らせ等もここに届くことになります。

その他の新着情報には、学生生活、学生支援(授業料免除や奨学金等含む)、地域協創教育、キャリア支援、留学に関することや図書館からのお知らせが届きます。



### < My 時間割 >

My 時間割には、履修している科目の時間割、開講される講義室等が表示されます。また、授業時間表や1年間の大学のスケジュール等が、学年暦や行事予定表として表示されています。

My 時間割の科目名をタップすると、該当科目の WebClass が表示されます。

### < 履修科目 >

履修科目の一覧が表示されます。履修科目のシラバスや LMS ボタンから該当科目の WebClass が表示されます。

### < シラバス >

シラバスを検索、閲覧することができます。科目履修に必要な情報が掲載されていますので、履修申告する際は必ず確認するようにしてください。また、当該科目の担当教員に連絡を取りたい場合に必要な連絡先等もシラバスで確認することができます。

### < 各種申告 >

各種申告では、履修に必須となる履修申告や、学生本人、保護者の連絡先を登録する住所変更・登録が行えます。また、取得を希望する資格(等)の種類を登録することができます。

### < 学務関連 >

履修の手引きや学生生活の手引きをダウンロードすることができます。

### < リンク >

関連の機関等のホームページへのリンクになります。

### < 緊急連絡 >

災害時等の安否確認等を行うための機能になります。

### < 設定 >

各種お知らせのプッシュ通知を受け取る設定や、My 時間割の表示場所を設定することができます。

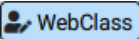
## 2. WebClass (ウェブクラス)

WebClass (以下「ウェブクラス」という。)は、教材の配付やテスト等、出席確認に利用されます。

その他、各種アンケート等にも利用されます。

### < 利用 >

ウェブクラスは、アイアシスタントの My 時間割にある科目名をタップして、利用します。

なお、My 時間割の下の「Webclass のトップページへ」または  をタップするとウェブクラスのトップページにアクセスできます。

時限(校時)	月	火
1	<a href="#">初級フランス語(入門)</a>	
2		<a href="#">経済のしくみ</a>

ウェブクラスでは、授業を「コース」と呼びます。授業でウェブクラスを利用するかは、授業担当の教員によります。

#### < 教材 >

教材には、教材の一覧が表示され、タイムラインに教材が時系列で通知されます。

#### < マイレポート >

マイレポートには、提出したレポートのコメントや成績、提出日が表示されます。

#### < 成績 >

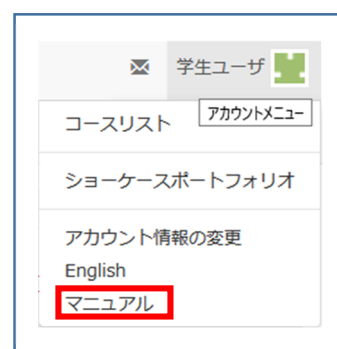
成績では、実施されたテストやレポートの採点結果を確認することができます。

#### < 出席 >

出席では授業の始めに出席データを送信したり、今までの出席状況を確認することができます。

#### < マニュアル >

マニュアルは、アカウントメニューからダウンロードすることができます。



### 3. I<sup>n</sup> Folio (アイフォリオ)

I<sup>n</sup> Folio (以下「アイフォリオ」という。)は、学位授与の方針(ディプロマポリシー、以下「DP」という。)の達成状況に関する自己評価や取得単位から算出される達成量、さらに学士力(学士課程共通のDP)、学修時間、学修体験に関する自己評価を見える化したシステムです。

#### < 利用 >

アイフォリオは、アイアシスタントの  をタップして利用します。

#### < 学生情報 >

学生情報には、所属している学部、学科等のプログラム概要や学位授与方針が表示されます。

#### < ポリシー >

自己評価：各年度・学期ごとに「学位授与の方針」の達成状況についての自己評価を入力します。

入力しなければ、成績を見ることはできません。

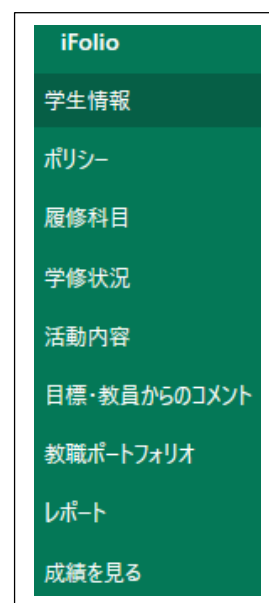
DPグラフ：累積の達成量のグラフが表示されます。

累積達成量：各学期までの取得単位数×DPに対する重みづけから算出された達成量です。

#### < 履修科目 >

履修した科目について、学修状況を評価入力します。

入力しなければ、成績を見ることはできません。



#### <レポート>

ウェブクラスの学習記録ビューアが表示されます。

#### <学修状況>

学士力自己評価、学修時間自己評価、学修体験自己評価別の学期ごとの自己評価とそれらのレーダーチャートです。

#### <活動内容>

委員会活動やサークル・部活、インターンシップ、資格・検定等に関して、自身の活動を記録（入力）しておくことができます。

#### <目標・教員からのコメント>

学部によっては、学修ポートフォリオの一環として、年度ごとに学生が将来の希望や年間の目標、その成果等を記入し、それに対して教員がコメントを記入する取り組みが行われています。

#### <教職ポートフォリオ>

教員免許状を取得するのに必要な資質能力の向上のために利用します。

#### <成績を見る>

自身の修得単位、成績の状況を確認することができます。

また、修得した単位の集計表、GPAの値、履修中を含めた科目の一覧が表示されるほか、卒業に向けての単位の充足率（卒業要件をどのくらい満たしているのかを判定した結果）を見ることができます。なお、この充足率は参考の情報となりますので、履修の手引きを参照のうえ、各自で必ず確認してください（修得した単位すべてが卒業要件の単位となるわけではないので、注意すること）。

なお、学期ごとに新たな成績を見るには、前述の各種自己評価を入力する必要があります。

#### <マイレージ>

国際教育センターで実施している「IHATOVO グローバルコース」、地域協創教育センターで実施している「イーハトーヴ協創コース」のマイレージポイントの状況を確認することができます。

## 大学メール

入学時に、大学で利用する学生専用のメールアドレス（～@iwate-u.ac.jp）が付与されます。

これは個人へのお知らせ等に利用されるもので、緊急時等にもこのメールのお知らせが届きます。アイアシスタントだけではなく、大学メールも毎日（随時）確認するようにしてください。

# 教養教育について

( 獣医学部を除く )

# 教養教育について (獣医学部を除く)

## 1 教養教育の理念

岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として教養教育を設け、「基礎的な知識の修得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を涵養する」ことを理念としています。

この理念を実現するために、教養教育は、岩手大学のすべての教職員の関心・責任・協力のもとに実施されています。

## 2 教養教育の教育目的と修得すべき能力

教養教育における人材養成像を以下のとおり明示します。

### 教養教育の教育目的及び修得すべき能力

#### <教育目的>

岩手大学は、基礎的な知識を身につけ、多様な領域に対する学問的関心を高め、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とし、すべての学生が共通に学ぶべき教養教育を提供する。

#### <修得すべき能力>

教養教育では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの意欲や関心に基づき主体的に学び続ける能力
- (2) 自ら問題を発見・探究・解決する思考力と判断力
- (3) 複雑化する社会に適応するために必要な情報を収集し処理する基本的能力
- (4) 幅広い学問領域の知識を身につけ、専門分野に対する複合的視点を獲得するための総合的能力
- (5) 多様な人びとと協働するために必要なさまざまな言語による基本的コミュニケーション能力
- (6) 心と体の健康を保つ手段や方法を獲得するために必要な基礎的人間力
- (7) 自らの役割を認識し、身につけた教養を責任ある行動に結びつける能力

### 教養教育科目の構成(科目区分等)

教養教育科目は、前述の教育目的を達成するために、「技法知科目」、「学問知科目」、「探究知科目」及び「実践知科目」によって構成されています。

区分			
教養教育科目	技法知科目	外国語科目	英語
			英語以外
			日本語
		健康・スポーツ科目	
		情報科目	
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目	
		理学・工学領域科目	
		農学領域科目	
	探求知科目	環境科目	
	実践知科目	地域関連科目	地域科目
地域課題演習科目			

### 各科目区分等の教育目的及び修得すべき能力

#### A 技法知科目

## <教育目的>

「技法科目」は、外国語科目と情報科目の学習を通じて、学問知・探究知・実践科目ならびに専門教育科目の学業を進めるうえで、さらに卒業後に社会生活を営むうえで必要となる基本的技能やその基礎となる知識を身につけるとともに、健康・スポーツ科目の学習を通じて、社会生活を営む基盤となる健康・体力の増進を図ることを目的とする。

## <修得すべき能力>

「技法科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
- (2) 情報の収集・加工を適切に行うことができる能力
- (3) 自ら健康・体力の保持増進を図ることができる能力

## 1. 外国語科目

### ・英語

#### <教育目的>

「英語」は、学生が英語を通して他国及び自国の文化や社会に関する理解を深め、英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養成することを目的とする。

また、英語を自律的に学習する習慣を身につけさせ、修得した英語力を利用して、情報を効率的に収集・発信する能力を向上させることを目的とする。

さらに、英語による異文化コミュニケーションのあり方について認識を深めさせることも目的とする。

#### <修得すべき能力>

「英語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 十分な英語力を身につけていない習熟度が初級の学生にとっては、英文法や基礎的語彙・表現などの学習を通して、英語の基礎的な読み書き能力を修得し、それらを応用して簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力
- (2) ある程度の英語力を既に身につけている習熟度が中級の学生にとっては、様々なテーマについて書かれた入門レベルの英文を読みこなせる読解力、平易な英語を使って英文が書ける作文力、身近な話題について説明したり、簡単な意見を述べたりすることができるコミュニケーション能力
- (3) 高度な英語力を有する習熟度が上級の学生にとっては、各自の専門領域に関する複雑なテキストを正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英語表現を用いて英文が書ける作文力、相手に自分の意思を的確に伝えたり、論理的に意見を述べたりできるコミュニケーション能力
- (4) 上記、いずれの習熟度の授業においても、異文化に対する理解を深め、促進する

### ・英語以外の外国語

#### <教育目的>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」は、外国語の文法を習得した上で、日常生活に必要な基本的な会話ができるようにすること、外国語で書かれた文章を読むことができるようにすること、日常生活で使う文章を外国語で書けるようにすること、外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること、の4点を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

初級外国語（入門・発展）では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力
  - ・ドイツ語技能検定試験 4級
  - ・実用フランス語技能検定試験 4級
  - ・ロシア語能力検定試験 4級
  - ・中国語検定試験 4級
  - ・漢語水平考試（HSK） 3級
  - ・韓国語能力試験 TOPIK（1～2級 140点以上）
  - ・ハングル能力検定試験 5級

(2) 外国語を用いて、基本的なコミュニケーションを行うことができる能力

(3) 易しい文章を読んだり書いたりできる能力

(4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための基礎的知識

中級外国語では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力

- ・ドイツ語技能検定試験 3級
- ・実用フランス語技能検定試験 3級
- ・ロシア語能力検定試験 3級
- ・中国語検定試験 3級
- ・漢語水平考試 (HSK) 4級
- ・韓国語能力試験 TOPIK (3~6級 120点以上)
- ・ハングル能力検定試験 4級

(2) 外国語を用いて、より高度なコミュニケーションを行うことができる能力

(3) やや難解な文章を読んだり書いたりできる能力

(4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための知識

## ・日本語

### <教育目的>

「日本語」は、外国人留学生を対象とし、上級レベルの四技能（読む・書く・聞く・話す）の指導を通じ、日本語による情報収集、口頭発表、論文作成、討論など、大学の授業や研究活動に日本語を使用して参加する力の養成を目的とする。

### <修得すべき能力>

「日本語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

(1) 文法力、読解力、聴解力については日本語能力試験N1レベル以上の能力

(2) レポート、小論文等の文章作成力、および、討論、口頭発表等の口頭表現力等、日本語教育の参照枠のC1レベル以上の日本語能力

## 2. 健康・スポーツ科目

### <教育目的>

「健康・スポーツ科目」は、スポーツを行うことによって健康と体力の保持増進を図り、コミュニケーション能力を高めるとともに、スポーツ科学やスポーツ文化についても理解を深めながら、生涯にわたりスポーツを实践する力を養うことを目的とする。

### <修得すべき能力>

「健康・スポーツ科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

(1) スポーツ活動を通じて健康と体力の保持増進を図る能力

(2) スポーツ活動を通して他者とコミュニケーションを図る能力

(3) スポーツを科学的・文化的に理解するとともに生涯にわたってスポーツを实践する能力

## 3. 情報科目

### <教育目的>

「情報科目」は、高度情報化社会において社会生活を営む上で必要となるコンピュータと情報処理に関する基礎的な知識と技能を習得することを目的とする。

### <修得すべき能力>

「情報科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

(1) コンピュータの基本的な仕組みを理解し、目的に応じて使うことができる基礎的な能力

(2) 多種多様な情報から必要な情報を獲得し、目的に向けた適切な処理を行う基礎的な能力

(3) 情報を適切に受発信するための基礎的な能力

(4) 情報化社会におけるモラルや社会的な問題を理解し、適切な行動をとることができる能力

## B 学問科目

### <教育目的>

「学問科目」は、学生が諸学問分野の「ものの見方・考え方」を幅広く学ぶことによって、多様な学問領域への関心を高め、自分自身の専門分野が全体の中でどのような位置にあり、どのような意味・役割を持っているかを理解するとともに、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

### <修得すべき能力>

「学問科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

(1) 知識の修得を通じて、物事を多面的な角度から考察できる能力

(2) 知識の修得を通じて、多様な価値観を受け入れることができる能力

(3) 自然・人間・社会との関係において、各種の常識・通念を根底的に捉え直せるような「ものの見方・考え方」ができる能力

### 1. 人文社会科学・教育学領域科目

#### <教育目的>

「人文社会科学・教育学領域科目」は、人文社会科学及び教育学における各学問分野の視点から、多様な文化の形成や意義、社会の成り立ち、教育や心理に関する諸問題を理解し、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「人文社会科学・教育学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 各種の文化や社会、教育、心理に関する基礎的な知識とそれらを多面的な角度から思考し考察できる能力
- (2) 各種の文化や社会、教育、心理に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

### 2. 理学・工学領域科目

#### <教育目的>

「理学・工学領域科目」は、理学及び工学における各学問分野の視点から、自然を理解し役立てる上での基礎的な概念や考え方を学び、人間と自然とのかかわりをめぐるさまざまな問題を取り上げることによって、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「理学・工学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 人間と自然とのかかわりを多面的な角度から考察できる能力
- (2) 自然科学や科学技術に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

### 3. 農学領域科目

#### <教育目的>

「農学領域科目」は、農学における各学問分野の視点から、生命や動植物、食料生産や環境に関することを学び、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「農学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 生命や動植物、食料生産や環境に関する基礎的な知識とそれらに関して考察できる能力
- (2) 自然科学や農林水産業に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

## C 探究知科目

### <教育目的>

「探究知科目」は、多元的・複合的な主題を掘り下げ、課題を見だし、探究することで、幅広く深い教養と総合的な判断力を培うことを目的とする。

### <修得すべき能力>

「探究知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 主体的に問いを立て、何が課題であるかを探究できる思考力
- (2) 事象間の繋がりや影響関係を複眼的に見いだすことができる能力
- (3) 激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できる、総合的判断を行える能力

### 1. 環境科目

#### <教育目的>

「環境科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられていることから、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「環境科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 環境を、自らの主観によるのではなくデータなどにに基づき客観的に理解する能力
- (2) 環境を、文系、理系などの自らの学ぶ専門領域を超えて、広い視野から理解する能力
- (3) 環境に関する問題を、人間や生物の生存と深くかかわるものと理解し、自らの問題として思考する能力

### 2. 地域関連科目

#### <教育目的>

「地域関連科目」は、異分野の専門家と協働し、自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる能力を養うことを目的とする。

**<修得すべき能力>**

「地域関連科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 異なる専門分野の者と協働して課題の発見・解決に取り組むことができる能力
- (2) 地域社会の現実に即して地域の課題解決に取り組む実践能力

**・地域科目**

**<教育目的>**

「地域科目」は、岩手の地域に関することを様々な分野・視点から学び、岩手の歴史・文化・特色を理解し、地域社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を培うことを目的とする。

**<修得すべき能力>**

「地域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 多角的・複眼的な視点によって、岩手の地域社会を全体的に把握できる能力
- (2) 総合的な判断に基づいて、岩手の地域社会の諸問題に対して柔軟に対応できる能力

**D 実践知科目**

**<教育目的>**

「実践知科目」は、技法知・学問知・探究知で培った知識や情報、技能を活用する能力を基礎に、さまざまな客体に対する理解と働きかけについて実践的に学修し、身につけた知識を主体的に実践することで、地域の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とする。

**<修得すべき能力>**

「実践知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 技法知・学問知・探究知科目で得た知識や情報を活用して課題を発見し解決する能力
- (2) 社会における自らの役割を認識し、責任感をもって主体的に行動する能力
- (3) 他者と協働して多様な意見を調整し、解決策を見出す能力

**・地域課題演習科目**

**<教育目的>**

「地域課題演習科目」は、学生が地域社会にある具体的課題の解決に向けて、身につけた知識を実践活動と結びつけるための考え方や方法を学部を越えて学び、課題解決に必要な思考力・判断力を養うことを目的とする。

**<修得すべき能力>**

「地域課題演習科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの専門分野と異なる知識を修得し、他者の異なる意見も理解したうえで考察する能力
- (2) 異なる分野の人びとと協働して地域にある現実問題を積極的に解決しようとする意欲
- (3) 多様な人びとと共に課題解決に向けた協力体制を組織できるコミュニケーション能力
- (4) 学習で得た知識を社会での実践活動に活かす意欲と行動力
- (5) 学習で得た知識を課題の発見と解決に活かす能力

### 3 履修方法及び開設授業科目

履修については、本冊子及び授業時間割を参考にし、間違いのないよう注意してください。

**同一名称の授業科目は重複して履修できません。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できます。**

なお、授業科目には、必修科目と選択科目の2種類があり、各学部、学科、課程ごとにそれぞれ範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみ、または後期のみ開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意してください。

#### A 技法知科目

(1) 「外国語科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 a - 1

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
英語総合 (上級)	1	1	初級ロシア語(入門)	1	1
英語総合 (上級)	1	1	初級ロシア語(発展)	1	1
英語総合 (中級)	1	1	中級ロシア語	1	1
英語総合 (中級)	1	1	初級中国語(入門)	1	1
英語総合 (初級)	1	1	初級中国語(発展)	1	1
英語総合 (初級)	1	1	中級中国語	1	1
英語コミュニケーション (上級)	1	1	初級韓国語(入門)	1	1
英語コミュニケーション (上級)	1	1	初級韓国語(発展)	1	1
英語コミュニケーション (中級)	1	1	中級韓国語	1	1
英語コミュニケーション (中級)	1	1	上級日本語A	1	1
英語コミュニケーション (初級)	1	1	上級日本語B	1	1
英語コミュニケーション (初級)	1	1	上級日本語C	1	1
初級ドイツ語(入門)	1	1	上級日本語D	1	1
初級ドイツ語(発展)	1	1	上級日本語E	1	1
中級ドイツ語	1	1	上級日本語F	1	1
初級フランス語(入門)	1	1	上級日本語G	1	1
初級フランス語(発展)	1	1	上級日本語H	1	1
中級フランス語	1	1			

- 履修年次 -

1年次に履修すること。履修方式は学部ごとに異なるので、注意すること。

また、クラス分けを行っているので、注意すること(掲示により確認すること)。

(注) 1. 外国語は週1時限で1単位。

2. 「英語」と「英語以外の外国語」を合わせて、計8単位履修すること。

3. 英語総合 ・ は「読むことと書くこと」を中心とする授業であり、英語コミュニケーション ・ は「聞くことと話すこと」を中心とする授業である。

4. 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語から1つの言語を履修する。中級外国語は、初級外国語と同一言語を履修する。

5. 英語以外の外国語は、初級(入門)、初級(発展)の順に履修すること。

ただし、集中型(入門と発展を併せて週4回行う。)の授業の場合は、同時に履修すること。

6. 外国人留学生は、外国語科目として日本語を履修することができる。

7. 外国人留学生は、母語(native language)、およびCEFR C1レベル以上の既習得言語を、「外国語科目」として履修できない。

8. 英語以外の外国語で1科目当たり60時間以上を高校等で履修してきた学生は、別に指示するので申し出ること。

9. 「英語」については、上記のほか表 a - 2のとおり開設授業科目がある。

表 a - 2

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
英語発展A (TOEIC 初級)	1	1	2年次以上対象
英語発展B (TOEIC 中級)	1	1	2年次以上対象
英語発展C (実践英語)	1	1	2年次以上対象
英語発展D (科学英語)	1	1	2年次以上対象

- 履修年次 -

「英語発展」は2年次以上に履修すること。

なお、「英語発展」で修得した単位は選択となる。

(注) 1. 外国語は週1時限で1単位。

2. 英語発展A～Dに履修の順番はない。ただし、英語発展B (TOEIC 中級)の単位を修得した場合、英語発展A (TOEIC 初級)を履修することはできない。

3. 英語発展A (TOEIC 初級)は、TOEICスコア500点を到達目標とした授業である。

英語発展B (TOEIC 中級)は、TOEICスコア600点を到達目標とした授業である。

英語発展C (実践英語)は、日常生活で使用する実践的な英語力を養うことを目的とした授業である。

英語発展D (科学英語)は、「科学」をテーマにした文献の読解力の養成と英語によるプレゼンテーション能力を高めることを目的とした授業である。

(2) 「健康・スポーツ科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 b

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
健康・スポーツA	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツB	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツC (シーズン)	1	集中	集中実技(理論含む)

- 履修年次 -

全学部とも健康・スポーツAは1年次前期に、健康・スポーツBは1年次後期に履修すること。

(注) 1. 全学部とも健康・スポーツA (1単位)は必ず履修すること。

2. 健康・スポーツC (シーズン)は、「雪上のスポーツ」、「氷上のスポーツ」から1つ履修できる。

3. 健康・スポーツBと健康・スポーツC (シーズン)は人数制限があるので注意すること。

(3) 「情報科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 c (1年次対象)

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
情報基礎A	2	1	機器の操作含む
情報基礎B	2	1	機器の操作含む

- 履修年次 -

全学部とも情報基礎Aは1年次前期に、情報基礎Bは1年次後期に履修すること。

また、端末台数の関係上、学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号によるクラス編成を行っているので、注意すること(時間割及び掲示により確認すること)。

(注) 1. 全学部とも情報基礎A (2単位)は必ず修得すること。情報基礎B (2単位)は1年次後期に履修することができる。

2. 高校で情報科目を履修し、所定のレベルを有するものは早期に単位を修得できる場合がある。

B 学問知科目

(1) 「人文社会科学・教育学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 d

授 業 科 目	単位数	週時限数
思想	2	1
芸術学	2	1
文学	2	1
言語学	2	1
歴史学	2	1
法学	2	1
憲法	2	1
政治学	2	1
経済学・経営学	2	1
社会学	2	1
教育学	2	1
心理学	2	1

(2) 「理学・工学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 e

授 業 科 目	単位数	週時限数
物質科学	2	1
自然科学	2	1
材料科学	2	1
電気電子工学	2	1
エネルギー科学	2	1
数理情報科学	2	1
機械科学	2	1
環境・防災学	2	1
メディア情報学	2	1

(3) 「農学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 f

授 業 科 目	単位数	週時限数
農学基礎	2	1
食品健康科学	2	1
分子生物機能科学	2	1
分子生命医科学	2	1
農業環境工学	2	1
森林科学	2	1
動物科学	2	1
水産学基礎	2	1
獣医学A	2	1
獣医学B	2	1
獣医学C	2	1

C 探究知科目

(1) 「環境科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 g

授 業 科 目	単位数	週時間数
環境A	2	1
環境B	2	1
環境C	2	1
環境D	2	1
環境E	2	1
環境F	2	1

(2) 「地域科目(地域関連科目)」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 h

授 業 科 目	単位数	週時間数	授 業 科 目	単位数	週時間数
現代社会をみる視角	2	1	地域協創E	1	1
宮沢賢治の世界	2	1	地域協創F	1	1
危機管理と復興	2	集中	地域協創G	1	1
地場産業・企業論	2	集中	地域協創H	1	1
ボランティアとリーダーシップ	2	集中	地域協創I	1	1
地域協創入門	2	1	キャリアを考えるA	2	1
社会連携学A	2	1	キャリアを考えるB	2	1
社会連携学B	2	1	日本事情A	2	1
地域協創A	1	1	日本事情B	2	1
地域協創B	1	1	多文化コミュニケーションA	2	1
地域協創C	1	1	多文化コミュニケーションB	2	1
地域協創D	1	1			

D 実践知科目

(1) 「地域課題演習科目(地域関連科目)」の開講授業科目及び履修方法等  
表 i

授 業 科 目	単位数	週時間数
地域防災課題演習	2	1
地域グローバル課題演習	2	1
地域クリエイト課題演習	2	1
地域課題演習A	2	1
地域課題演習B	2	1
地域課題演習C	2	1
地域課題演習D	2	1
インターカレッジ・フィールド実践演習	2	1
キャリアデザイン実践演習	2	1
海外研修-世界から地域を考える-	2	集中

(注) 地域課題演習科目(2単位)は、人数制限があるので注意すること。

#### 4 「選択」について

外国語科目（「英語発展」のみ）ならびに必修単位数を超えた健康・スポーツ科目、情報科目、人文社会科学・教育学領域科目、理学・工学領域科目、農学領域科目、地域関連科目（地域科目、地域課題演習科目）を「選択」に充てることができます。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換協定に基づき、他大学で修得した科目については、所定単位数までは「選択」のなかに取り入れることができます。

なお、「選択」の範囲及び修得すべき単位数等については、学部、学科、課程により異なるので各学部の説明の項を参照してください。

参考: 履修授業科目要件区分 / 標準履修学年・時期早見表

履修区分		科目名 (印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考			
技法知 科目	英語	英語総合 (初級)	1	選択	1	履修希望調査及び大学入学共通テストとオックスフォード・プレースメント・テストによりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)			
		英語総合 (中級)	1	選択	1				
		英語総合 (上級)	1	選択	1				
		英語総合 (初級)	1	選択	1				
		英語総合 (中級)	1	選択	1				
		英語総合 (上級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (初級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (中級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (上級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (初級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (中級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (上級)	1	選択	1				
		英語発展A (TOEIC 初級)	1	選択	2 前				
		英語発展B (TOEIC 中級)	1	選択	2 後				
		英語発展C (実践英語)	1	選択	2 前				
		英語発展D (科学英語)	1	選択	2 後				
		外国語 科目	英語以外	初級ドイツ語(入門)	1		選択	1	履修希望調査によりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
				初級ドイツ語(発展)	1		選択	1	
				中級ドイツ語	1		選択	1 後	
	初級フランス語(入門)			1	選択	1			
	初級フランス語(発展)			1	選択	1			
	中級フランス語			1	選択	1 後			
	初級ロシア語(入門)			1	選択	1			
	初級ロシア語(発展)			1	選択	1			
	中級ロシア語			1	選択	1 後			
	英語以外		初級中国語(入門)	1	選択	1			
			初級中国語(発展)	1	選択	1			
			中級中国語	1	選択	1 後			
			初級韓国語(入門)	1	選択	1			
			初級韓国語(発展)	1	選択	1			
			中級韓国語	1	選択	1 後			
			上級日本語A	1	選択	1 前			
			上級日本語B	1	選択	1 前			
			上級日本語C	1	選択	1 前			
			上級日本語D	1	選択	1 前			
	健康・スポーツ 科目	健康・スポーツA	1	必修	1 前				
		健康・スポーツB	1	必修 / 選択	1 後				
		健康・スポーツC (シーズン)	1	選択	1 後				
	情報科目	情報基礎A	2	必修	1 前	学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号でのクラス編成を行う。 (時間割及び掲示により確認すること)			
		情報基礎B	2	選択	1 後				
学問知 科目	人文社会科学・ 教育学領域科目	思想	2	選択	1・2	教育学部生は、時間割を確認の上、「憲法」を1年前期に履修すること。			
		芸術学	2	選択	1・2				
		文学	2	選択	1・2				
		言語学	2	選択	1・2				
		歴史学	2	選択	1・2				
		法学	2	選択	1・2				
		憲法	2	必修 / 選択	1・2				
		政治学	2	選択	1・2				
		経済学・経営学	2	選択	1・2				
		社会学	2	選択	1・2				
		教育学	2	選択	1・2				
心理学	2	選択	1・2						

履修区分	科目名 (印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考		
学問知 科目	理学・工学領域科目	物質化学	2	選択	1・2		
		自然科学	2	選択	1・2		
		材料科学	2	選択	1・2		
		電気電子工学	2	選択	1・2		
		エネルギー科学	2	選択	1・2		
		数理情報科学	2	選択	1・2		
		機械科学	2	選択	1・2		
		環境・防災学	2	選択	1・2		
		メディア情報学	2	選択	1・2		
		農学領域科目	農学基礎	2	選択	1・2	
	食品健康科学		2	選択	1・2		
	分子生物機能科学		2	選択	1・2		
	分子生命医科学		2	選択	1・2		
	農業環境工学		2	選択	1・2		
	森林科学		2	選択	1・2		
	動物科学		2	選択	1・2		
	水産学基礎		2	選択	1・2		
	獣医学A		2	選択	1・2		
	獣医学B		2	選択	1・2		
	獣医学C	2	選択	1・2			
探究知 科目	環境科目	環境A	2	選択	1・2 前		
		環境B	2	選択	1・2 前		
		環境C	2	選択	1・2 前		
		環境D	2	選択	1・2 後		
		環境E	2	選択	1・2 後		
		環境F	2	選択	1・2 後		
	地域 科目	地域 科目	現代社会をみる視角	2	選択	1・2	
			巨沢賢治の世界	2	選択	1・2	
			危機管理と復興	2	選択	1・2	
			地域産業・企業論	2	選択	1・2	
			ボランティアとリーダーシップ	2	選択	1・2	
			地域協創入門	2	選択	1・2	
			社会連携学A	2	選択	1・2	
			社会連携学B	2	選択	1・2	
			地域協創A	1	選択	1・2	
			地域協創B	1	選択	1・2	
			地域協創C	1	選択	1・2	
			地域協創D	1	選択	1・2	
			地域協創E	1	選択	1・2	
			地域協創F	1	選択	1・2	
			地域協創G	1	選択	1・2	
			地域協創H	1	選択	1・2	
			地域協創I	1	選択	1・2	
			キャリアを考えるA	2	選択	1・2	
			キャリアを考えるB	2	選択	1・2	
			日本事情A	2	選択	1・2	
			日本事情B	2	選択	1・2	
			多文化コミュニケーションA	2	選択	1・2	
多文化コミュニケーションB	2	選択	1・2				
実践知 科目	地域課題 演習科目	地域防災課題演習	2	選択	2		
		地域グローバル課題演習	2	選択	2		
		地域クリエイティブ課題演習	2	選択	2		
		地域課題演習A	2	選択	2		
		地域課題演習B	2	選択	2		
		地域課題演習C	2	選択	2		
		地域課題演習D	2	選択	2		
		インターカレッジ・フィールド実践演習	2	選択	2		
		キャリアデザイン実践演習	2	選択	2		
		海外研修-世界から地域を考える-	2	選択	2		

注1:各学部の履修単位数及び履修方法を確認すること。

注2:履修にあたっては前期のみまたは後期のみまたは後期のみの開設授業科目や年度により開設しない科目があるので、時間割を確認すること。

なお、時間割には、学年・学部・学科等の単位で履修できる枠(時間割枠)があるので、注意すること。

注3:科目名の 印は集中講義形式での開講を示しているが、これ以外でも集中講義形式で開講する場合がある。

## 5 修得すべき単位数と履修の注意点～教育学部～

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表 b 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				教 育 学 部			
				必修 単位	選択		
					(選択可能)	単位	
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語	4	(2)	4 「 選 択 」 参 照	
			英語以外	4			
			日本語				
		健康・スポーツ科目	2	(1)			
	情報科目	2	(2)				
	技法知科目修得単位数計				12		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目(憲法)		2			
		人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)		
		理学・工学領域科目		2	(2)		
		農学領域科目		2	(2)		
	学問知科目修得単位数計				8		
	探究知科目	環境科目		4	(2)		
	実践知科目	地域関連科目	地域科目				
			地域課題演習科目				
探究知・実践知科目取得単位合計数				4			
教養教育科目修得単位数計				28			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。  
 2. 「選択可能」欄の数字は、教養教育科目の修得すべき単位数のうち、各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。  
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

技法知科目(12単位)

必修単位(12単位)

外国語科目(英語)(4単位)

英語総合 ・ を各1単位、英語コミュニケーション ・ を各1単位、合計4単位を修得すること。

外国語科目(英語以外の外国語)(4単位)

1外国語を選択し、初級(入門)を2単位、初級(発展)を2単位、合計4単位を修得すること。

健康・スポーツ科目(2単位)

健康・スポーツA(1単位)は必ず修得すること。

健康・スポーツB及び健康・スポーツCから1単位を修得すること。健康・スポーツBを修得することが望ましい。

健康・スポーツC(シーズン)は、「雪上のスポーツ」、「氷上のスポーツ」から1つ修得できるが、人数制限があること、開講しない年度があることについて注意すること。

情報科目(2単位)

情報基礎A(2単位)を修得すること。

学問知科目、探究知科目及び実践知科目（12単位）

必修単位（12単位）

- 「人文社会科学・教育学領域科目」から憲法（2単位）を修得すること。
- 「人文社会科学・教育学領域科目」から憲法を除き2単位を修得すること。
- 「理学・工学領域科目」から2単位を修得すること。
- 「農学領域科目」から2単位を修得すること。
- 「環境科目」、「地域科目」、「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

選択（4単位）

次の区分から4単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- 「健康・スポーツ科目」（1単位まで）
- 健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。
- 「情報科目」（2単位まで）
- 「人文社会科学・教育学領域科目」（憲法を除く）（2単位まで）
- 「理学・工学領域科目」（2単位まで）
- 「農学領域科目」（2単位まで）
- 「地域科目」、「地域課題演習科目」（2単位まで）

- 履修上の注意事項 -

- 1 「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」、「情報科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯で履修すること。また、「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。  
なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。  
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 3 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。  
決定語学は変更できない。

専門教育について

教育学部

教育学部の皆さんへ

次ページ以降の教育学部における履修についての説明は、以下の構成になっています。

1. 1 教育学部の理念と目的
1. 2 教育学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
1. 3 岩手大学教育学部教育課程規則
1. 4 課程等の紹介
  
2. 教育学部の専門教育科目卒業要件：概要（初めにこの項を必ずご覧ください。）
  2. 1 卒業要件単位数
    2. 1. 1 小学校教育コース
      - (1) 国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース
      - (2) 教育学・心理学・情報教育学・特別支援教育の各サブコース
    2. 1. 2 中学校教育コース
    2. 1. 3 理数教育コース
    2. 1. 4 特別支援教育コース
  2. 2 卒業要件科目（教育学部専門教育科目）：詳細版（具体的な科目一覧表が掲載されています。）
    2. 2. 1 小学校教育コース
      - (1) 国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース
      - (2) 教育学・心理学・情報教育学の各サブコース＜「小学校一種＋中学校二種」免許を取得する場合＞
      - (3) 教育学・心理学・情報教育学・特別支援教育の各サブコース＜「小学校一種＋特別支援一種」免許を取得する場合＞
    2. 2. 2 中学校教育コース
      - (1) 「中学校一種＋小学校二種」免許を取得する場合
      - (2) 「中学校一種＋中学校他教科二種」免許を取得する場合
    2. 2. 3 理数教育コース
      - (1) 小学校教育専修 ＜「小学校一種＋中学校一種」免許を取得する場合＞
      - (2) 中学校教育専修 ＜「中学校一種＋小学校二種」免許を取得する場合＞
    2. 2. 4 特別支援教育コース
      - (1) 基礎免として小学校免許を取得する場合
      - (2) 基礎免として中学校免許を取得する場合
  2. 3 教育実習の受講資格及び卒業研究の着手条件、履修科目登録単位の上限について  
教育実習の受講資格                      卒業研究の着手条件  
履修科目登録単位の上限（CAP制）の特例
  
3. 授業科目及び履修年次
  3. 1 教職専門科目＜一覧表＞＜個表＞
  3. 2 教科専門科目（小学校科目）
  3. 3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目
    - (1) 国語 (2) 社会 (3) 英語 (4) 音楽 (5) 美術 (6) 保健体育 (7) 教育学 (8) 心理学 (9) 情報教育学 (10) 特別支援教育
  3. 4 理数教育コースの開講科目
    - (1) 理科 (2) 数学
  3. 5 特別支援教育コースの開講科目
  
4. 副免及びその他の教員免許の取り方について
  4. 1 コース毎の教員免許の取得について
    4. 1. 1 小学校教育コース
    4. 1. 2 中学校教育コース
    4. 1. 3 理数教育コース
    4. 1. 4 特別支援教育コース
  4. 2 教員免許取得のための必要単位
    4. 2. 1 小学校教員免許
    4. 2. 2 中学校教員免許 / 高等学校教員免許
    4. 2. 3 特別支援学校教員免許
  
5. 日本語教育副専攻科目について

# 教 育 学 部

## 1.1 教育学部の理念と目的

(理念)

岩手大学教育学部は、幅広い視野と教養、専門的知識・技能、及び実践的な指導力を兼ね備えた学校教員を養成するとともに、教育分野に関わる理論的・実践的な教育研究を行うことで、学校教育の発展に貢献する。

(目的)

本学部は、教員養成の専門学部として、教育に関する理論的・実践的な力量、教育内容とその背景をなす諸学問の理解及び豊かな人間性・社会性を備え、地域の要請に応えつつ、教員としての意欲と高い使命感をもって教育に取り組むことができる教員の養成を目的とする。

## 1.2 教育学部の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

岩手大学教育学部の理念と教育目標に則り、所定の教育課程(複数免許取得を含む)を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(教育)」の学位を授与する。

### 【小学校教育コース】

(知識・理解)

1. 総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
2. 小学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
3. 各教科等の内容及び指導法に関する基礎的な知識を身につけている。
4. 専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。

(思考・判断)

5. 学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して、学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。
6. 専攻する学問分野の探究的な活動を通して、課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

(技能・表現)

7. 小学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
8. ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。  
また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。

(関心・意欲)

9. 学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

(態度)

10. 学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。

## 【中学校教育コース】

### (知識・理解)

1. 総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
2. 中学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
3. 取得する免許教科の内容及び指導法に関する知識を身につけている。
4. 専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。

### (思考・判断)

5. 学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して、学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。
6. 専攻する学問分野の探究的な活動を通して、課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

### (技能・表現)

7. 中学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
8. ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章での確に表現することができる。  
また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。

### (関心・意欲)

9. 学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

### (態度)

10. 学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。

## 【理数教育コース】

### (知識・理解)

1. 総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
2. 義務教育段階の学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
3. 理科あるいは算数・数学の内容及び指導法に関する知識を身につけている。
4. 専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。

### (思考・判断)

5. 学校教育に関する総合的な基礎的知識、理数教育に関する知識、及び実践的な体験を通して、学校教育について実践的に思考・判断する能力を身につけている。
6. 専攻する学問分野の探究的な活動を通して、課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

### (技能・表現)

7. 理数教育を中心として小学校及び中学校における学習指導の基本的な技能を身につけている。
8. 小学校及び中学校における生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
9. ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章での確に表現することができる。  
また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。

### (関心・意欲)

10. 学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、理数教育の充実を中心として学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

### (態度)

11. 学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。

## 【特別支援教育コース】

### (知識・理解)

- 1．総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
- 2．特別支援学校における教育及び小学校教育または中学校教育並びに子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
- 3．特別支援学校及び小学校または中学校の各教科等の内容並びに指導法に関する基礎的な知識を身につけている。
- 4．特別支援教育の専門的知識を身につけている。

### (思考・判断)

- 5．学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して、学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。
- 6．特別支援教育への探究的な活動を通して、課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

### (技能・表現)

- 7．小学校または中学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
- 8．特別支援学校における指導及び支援、特別支援学校が有するセンター的機能に求められる相談支援のための基礎的な技能を身につけている。
- 9．ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。  
また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。

### (関心・意欲)

- 10．学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。
- 11．特別支援教育の現状や課題に強い関心を持ち、最新の動向の把握に努め、特別支援教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

### (態度)

- 12．学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。
- 13．特別支援教育に対する強い使命感と責任を自覚し、児童生徒及び保護者の思いに寄り添う態度を身につけている。

## 1.3 岩手大学教育学部教育課程規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則(以下「学則」という。)第36条第5項の規定に基づき、岩手大学教育学部(以下「本学部」という。)における専門教育(以下「専門教育」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

2 本学部の教育課程に関する事項は、学則に定めるもののほか、この規則による。

3 学則及びこの規則に特別の定めのある場合を除き、教育課程に関する事項は、教授会が定める。

(目的)

第2条

本学部は、教員養成の専門学部として、教育に関する理論的・実践的な力量、教育内容とその背景をなす諸学問の理解及び豊かな人間性・社会性を備え、地域の要請に応えつつ、教員としての意欲と高い使命感をもって教育に取り組むことができる教員の養成を目的とする。

(課程、コース、サブコース及び専修)

第3条 本学部に学校教育教員養成課程を置く。学校教育教員養成課程に次のとおりコース及びサブコースを置く。

学校教育教員養成課程

小学校教育コース

国語サブコース

社会サブコース

英語サブコース

音楽サブコース

美術サブコース

保健体育サブコース

教育学サブコース

心理学サブコース

情報教育学サブコース

特別支援教育サブコース

中学校教育コース

国語サブコース

社会サブコース

英語サブコース

音楽サブコース

美術サブコース

保健体育サブコース

理数教育コース

理科サブコース

数学サブコース

特別支援教育コース

2 学校教育教員養成課程理数教育コースの理科及び数学の各サブコースに小学校教育専修及び中学校教育専修を置く。

(専門教育の授業科目)

第4条 専門教育における授業科目(以下「科目」という。)は、必修科目、選択必修科目及び選択科目からなる。

2 科目は、講義、演習、実験、実習、教育実習及び卒業研究等による。

3 科目の種類とその単位数は、別表1による。

4 科目の必修と選択の別、年次配当、時間数及び履修方法等並びに教育実習に係る特別措置については別に定める。

(科目等の公示)

第5条 各学期に開講する科目、授業時間及び担当教員は、学期の初めに公示する。

(履修科目の届出)

第6条 学生は、履修しようとする科目を学期当初の指定の期間内に学部長に届け出なければならない。

2 学期の途中から開講する科目については、その時に前項の届出をすることができる。

3 第1項及び第2項の届出をしない者は、単位の認定を受けることができない。

4 第1項及び第2項の届出の後には科目を変えることはできない。

5 他学部の授業科目、国際教育科目又は他大学の開講する授業科目を履修しようとする学生は、所定の手続きを経て許可を得なければならない。

6 他学部及び他大学に在籍する学生が本学部の科目の履修を願い出たときは、前項に準ずる。

(成績評価)

第7条 科目の成績は、秀、優、良、可及び不可の評語で表わし、秀、優、良及び可を合格、不可を不合格とする。

2 試験を行う場合は、各学期末に行う。ただし、科目によっては、各学期末以外の適当な時期に行うことができる。

(卒業認定)

第8条 学部を卒業するには、別表2に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 卒業の要件として学部の定める単位を特に優秀な成績をもって修得したと認められる場合は、岩手大学における在学期間の特例に関する規則の定めるところにより3年以上4年未満の在学で卒業を認める。

3 前項に関して必要な事項は、別に定める。

附 則 (省略)

別 表 (省略)

## 1.4 課程等の紹介

### 学校教育教員養成課程

学校教育教員養成課程は、「小学校教育コース」、「中学校教育コース」、「理数教育コース」及び「特別支援教育コース」の4コースからなり、主として小学校、中学校及び特別支援学校の教員を養成することを目的とする。

この課程では、教育に関する理論的・実践的な知識、教育内容とその背景をなす諸学問の理解、及び豊かな人間性・社会性を備え、意欲と高い使命感を持って地域の教育に取り組むことが出来る教員を養成する。

また、この課程では、幼稚園から小学校、中学校及び特別支援学校のそれぞれにおける発達段階を見通して子どもを理解する能力及び学校教育現場のいじめ・不登校・学級がうまく機能しない状況等の諸課題にも対応できる能力を育成する。

なお、学校教育教員養成課程では、すべてのコースにおいて複数の教員免許状取得を卒業要件として義務付けている。(以下のコースごとの説明を参照のこと)

#### 小学校教育コース

小学校教育コースでは、小学校教員の養成を主たる目的とし、小学校の教科の内容と教育方法について専門的知識・能力を深めるとともに、学校現場での諸課題に対する実践能力・問題解決能力を身につける。本コースでは、小学校教員としての得意分野の形成をはかるため、それぞれの専門教育領域から構成されるサブコースに、1年次後期から所属する。サブコースには、各教科に対応したサブコース(国語、社会、英語、音楽、美術、保健体育)のほか、教育学、心理学、情報教育学及び特別支援教育のサブコースがある。なお、各サブコースの紹介及び配属決定方法については、入学時に配付される『サブコース所属の手引き』を参照のこと。

本コースでは、以下に示すとおり、卒業要件として主免及び副免の合わせて二つの教員免許状の取得を義務付けている。すなわち、各教科に対応したサブコース(国語、社会、英語、音楽、美術、保健体育)に所属する場合は、主免許として小学校教諭一種免許状及び副免として所属サブコースの教科に対応する中学校教諭免許状(二種免)の資格取得を卒業要件とする。教育学サブコース、心理学サブコース、情報教育学サブコースに所属する場合は、主免として小学校教諭一種免許状及び副免として希望する教科の中学校教諭免許状(二種免)あるいは特別支援学校教諭一種免許状の資格取得を卒業要件とする。特別支援教育サブコースに所属する場合は、小学校教諭一種免許状と特別支援学校教諭一種免許状の資格取得を卒業要件とする。さらに、どのサブコースに所属していても、希望に応じて所定の単位を追加取得することにより、所属サブコース以外の教科の中学校・高等学校教諭の免許、特別支援学校教諭の免許状を取得できる。

#### 中学校教育コース

中学校教育コースは、国語、社会、英語、音楽、美術、保健体育の6サブコースで構成され、学生の所属するサブコースは入学時に決定している。本コースでは、それぞれの教科の内容と教育方法について専門的知識・能力を深めるとともに、学校現場での諸課題に対する実践能力・問題解決能力を身につけることを目的としている。本コースでは、所属サブコースの教科の中学校教諭一種免許状取得と、小学校教諭免許状(二種免)あるいは所属サブコースの教科以外の中学校教諭免許状(二種免)の資格取得を卒業要件としている。

なお、卒業要件となる上記の中学校教諭一種免許状の取得により、同教科の高等学校教諭一種免許状も合わせて取得できる。(国語、社会及び美術は、要件が異なるので、「4.2.2 中学校教員免許/高等学校教員免許」以降を必ず参照すること)。さらに希望によっては、所定の単位を取得することにより、所属サブコース以外の教科の中学校・高等学校教諭の免許状、小学校及び特別支援学校教諭の免許状を取得できる。

## 理数教育コース

理数教育コースは理科及び数学の2つのサブコースから構成されており、学生の所属するサブコースは入学時に決定している。それぞれのサブコースには、理数系に強い小学校教員の養成を主たる目的とした「小学校教育専修」と、理科・数学の中学校教員の養成を主たる目的とした「中学校教育専修」とがある。それぞれの専修の決定は学生の希望に基づいて行い、1年次前期終了時に仮決定とし、2年次4月履修申告期間末日に正式決定とする。（ただし、推薦入学した学生は小学校教育専修に決定している。）

「小学校教育専修」では、主免となる小学校教諭一種免許状と、副免となるサブコースの教科に対応する中学校教諭一種免許状の資格取得を卒業要件とする。「中学校教育専修」では、主免となるサブコースの教科に対応する中学校教諭一種免許状と副免となる小学校教諭免許状（二種免）の資格取得を卒業要件とする。両専修とも、義務教育段階を一貫した理科/算数・数学の指導を先導できる専門的知識、技術を習得することを目指す。

なお、卒業要件となる上記の中学校教諭一種免許状の取得により、同教科の高等学校教諭一種免許状も合わせて取得できる。さらに希望によっては、所定の単位を履修することにより、所属サブコース以外の教科の中学校・高等学校教諭の免許状、特別支援学校教諭の免許状も取得できる。

## 特別支援教育コース

特別支援教育コースは、特別支援学校、特別支援学級、小学校・中学校等の通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする子どもに対して、自立や社会参加に向けた主体的取り組みを支援する観点から幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握して、適確に指導・支援できる教員の養成を目的としている。

学生は、特別支援学校等の特別支援教育に関する教科の内容と教育方法について専門的知識・能力を深めるとともに、特別支援学校等における特別支援教育に関する専門的・実践的力量を身につけ、学校現場での諸課題に対応する実践能力・問題解決能力を修得する。

本コースでは、主免となる特別支援学校教諭一種免許状と、基礎免となる小学校教諭一種免許状あるいは中学校教諭一種免許状の資格取得を卒業要件とする。また、希望によっては、所定の単位を履修することにより、その他の免許（小、中、高）を取得できる。

## 2. 教育学部の専門教育科目卒業要件

教育学部の卒業要件単位 134～146単位  
(教養教育科目28単位、専門教育科目106～118単位)

### <はじめに>

教育学部学校教育教員養成課程では、卒業要件として複数の教員免許を取得することが義務づけられています。卒業要件とは、卒業するために必要な条件のことを言います。教育学部では、卒業要件となる教員免許のうち、コースごとに指定される一つめの主たる免許のことを「主免」、二つめの免許のことを「副免」という名称で位置づけます。(ただし、特別支援教育コースでは特別支援学校教諭一種免許状の基礎として取得する免許のことを「基礎免」と呼びます。)また、主免・副免(基礎免)以外の教員免許で、卒業要件とはならない免許のことを「その他の免許」として、それぞれを区別しています。複数免許(主免・副免(基礎免))の組み合わせパターンはコースごとに異なりますので注意してください。

以下は、コースごとに、「主免・副免(基礎免)」の組み合わせパターンとその注意事項、そして卒業要件単位の一覧表を提示します。まずはこの項の表でその輪廓をつかんでください。

なお、各コースの区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。

### 2.1 卒業要件単位数

#### 2.1.1 小学校教育コース

小学校教育コースでは、主免として「小学校一種」免許を取得することはもちろんですが、副免としてもう一つの免許を取得しなくてはなりません。免許取得の組み合わせパターンはサブコースによって異なります。

教科サブコース(国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育)については、卒業要件として「小学校一種+中学校二種(所属サブコース)」免許の取得が義務づけられています。

教科以外のサブコースのうち、(教育学・心理学・情報教育学)については、「小学校一種+中学校二種」又は「小学校一種+特別支援一種」のどちらかのパターンの免許取得が義務づけられています。教科以外のサブコースのうち、(特別支援教育)については、「小学校一種+特別支援一種」の免許取得が義務づけられています。

#### (1) 国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース

区分	コース	小学校教育コース
		「小学校一種+中学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目		1
教職専門科目		42
教科専門科目		32
所属専門科目(中学校教科専門科目)		16(～21)
選択科目		12
卒業研究		6
専門教育科目 計		109(～114)
教養教育科目		28
合計		137(～142)

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。  
注) 区分「所属専門科目16単位」では、それぞれ副免とする中学校免許の教科専門科目を履修してください。ただし、選択した教科によっては、二種免許でも免許取得に必要な教科専門科目の単位数が16単位を超える教科があります。このことから、副免として選択した教科によっては、卒業最低単位数が上表の合計単位数(専門教育科目計109単位)を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目12単位」を活用して、免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお、副免の取得についての詳細は、「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## (2) 教育学・心理学・情報教育学の各サブコース

区分	小学校教育コース（教育学・心理学・情報教育学サブコース）	
	「小学校一種＋中学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数	「小学校一種＋特別支援一種」免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目	1	1
教職専門科目	42	39
教科専門科目	32	32
所属専門科目	10	6
選択必修科目	(中学校教科専門科目) 12(～21)	(特別支援教育に関する科目) 26
選択科目	6	2
卒業研究	6	6
専門教育科目 計	109(～118)	112
教養教育科目	28	28
合計	137(～146)	140

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。  
 注) 区分「選択必修科目12単位」(中学校教科専門科目)では、それぞれ副免とする中学校免許の教科専門科目を履修してください。ただし、選択した教科によっては、二種免許でも免許取得に必要なとなる中学校の教科専門科目の単位数が12単位を超える教科があります。このことから、副免として選択した教科によっては、卒業最低単位数が上表の合計単位数(専門教育科目計109単位)を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目6単位」を活用して、免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお、副免の取得についての詳細は、「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## (3) 特別支援教育サブコース

区分	小学校教育コース
	「小学校一種＋特別支援一種」免許を取得するための卒業要件単位数
転換教育科目	1
教職専門科目	39
教科専門科目	32
所属専門科目(選択必修)	6
所属専門科目(特別支援教育に関する科目)	26
選択科目	2
卒業研究	6
専門教育科目 計	112
教養教育科目	28
合計	140

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。

## 2.1.2 中学校教育コース

中学校教育コースでは、主免として「中学校一種」免許を取得することはもちろんですが、副免としてもう一つの免許を取得しなくてはなりません。免許取得の組み合わせは、次の二つのパターンがあります。すなわち、所属するサブコースの教科に対応する「中学校一種」免許と「小学校二種」免許の組み合わせ、あるいは、所属するサブコースの教科に対応する「中学校一種」免許と他教科の「中学校二種」免許の組み合わせ、のいずれかのパターンでの免許取得が義務づけられています。

区分	中学校教育コース	
	「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数	「中学校一種+中学校他教科二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目	1	1
教職専門科目	4 2	4 1
教科専門科目	(小学校教科専門科目) 1 6	(他教科専門科目【副免】) 1 2 ( ~ 2 1 )
所属専門科目(各科指定科目)	3 8	3 8
選択科目	4	8
卒業研究	6	6
専門教育科目 計	1 0 7	1 0 6 ( ~ 1 1 5 )
教養教育科目	2 8	2 8
合 計	1 3 5	1 3 4 ( ~ 1 4 3 )

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。  
注) 「中学校一種+中学校他教科二種」免許を取得する場合、区分「他教科専門科目【副免】12単位」で、副免とする教科の教科専門科目を履修してください。ただし、選択した教科によっては、二種免許でも免許取得に必要な教科専門科目の単位数が12単位を超える教科があります。このことから、副免として選択した教科によっては、卒業最低単位数が上表の合計単位数(専門教育科目計106単位)を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目8単位」を活用して、免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお、副免の取得についての詳細は、「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## 2.1.3 理数教育コース

理数教育コースでは、専修ごとに複数免許の取得パターンが異なります。小学校教育専修では、主免として「小学校一種」免許を取得することはもちろんですが、副免として、所属するサブコースの教科に対応する「中学校一種」免許を取得しなくてはなりません。中学校教育専修では、主免として、所属するサブコースの教科に対応する「中学校一種」免許を、副免として「小学校二種」免許を取得することが卒業要件として義務づけられています。

区分	小学校教育専修	中学校教育専修
	「小学校一種+中学校一種」免許を取得する場合の卒業要件単位数	「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目	1	1
教職専門科目	4 4	4 4
教科専門科目	(小学校教科専門科目) 3 0	(小学校教科専門科目) 1 6
所属専門科目	2 8	3 6
選択科目	2	6
卒業研究	6	6
専門教育科目 計	1 1 1	1 0 9
教養教育科目	2 8	2 8
合 計	1 3 9	1 3 7

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。

## 2.1.4 特別支援教育コース

特別支援教育コースでは、主免として「特別支援学校一種」免許の取得が義務づけられています。また、基礎免として「小学校一種免許」あるいは「中学校一種免許」のいずれかを取得することが卒業要件として義務づけられています。

区分	基礎免	小学校免許を取得する場合の卒業要件単位数	中学校免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目		1	1
教職専門科目		39	39
教科専門科目		32	(各科指定教科専門科目) 32
所属専門科目(特別支援教育に関する科目)		26	26
選択科目		3	3
卒業研究		6	6
専門教育科目 計		107	107
教養教育科目		28	28
合 計		135	135

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。

## 2.2 卒業要件科目（教育学部専門教育科目）

卒業要件となる専門科目の一覧表をコースごとに示します。それぞれのコースの表に記載されている科目の単位をすべて修得し、かつコースごとに定められた複数の教員免許状を取得し資格を得た場合に卒業要件を満たすこととなります。なお、副免として中学校教員免許を取得する場合には、教科によって免許取得に必要な単位数が異なります。以下の表に記載された合計単位数を超える場合がありますので注意してください。

### 2.2.1 小学校教育コース

#### (1) 国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース

コース 区分	小学校教育コース		別欄 科目	
	「小学校一種+中学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数			
	科目名	単位数		
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育の思想	2
	小 計 1単位		教育の歴史	2
			教育学特殊講義A	2
教職専門科目	教職入門	2	別欄 科目	
	教育概論	2	教育法規	2
	学校安全学と防災教育	2	学校経営・制度論	2
	教育・学校心理学	2		
	発達心理学	2		
	特別支援教育	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	道徳教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育課程・教育方法論	2		
	教育におけるICT活用法	1		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談	2		
	観察実習(小)	1		
	学校体験実習(小)	1		
	教育実習研究(小)	1		
	教育実習研究(中・高)	1		
	小学校教育実習	4		
	中学校教育実習	2		
	教職実践演習	2		
	プログラミング基礎	1		
	小 計 42単位			
教科専門科目	小学校算数	2	選択科目 について 他学部の科目、国際教育科目、いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち、本学部の科目として認定できなかった科目を、選択科目として10単位まで卒業要件として認定することができます。	
	小学校理科	2		
	小学校体育A	1		
	小学校英語	2		
	小学校音楽A	1		
	小学校国語	2		
	小学校社会	2		
	小学校図画工作	2		
	小学校家庭科	2		
	小学校生活科	2		
	教科の指導法(小学校10教科)		20	
	小 計		32単位	
所属専門科目	配属サブコースの科目(中学校教科専門科目)から	14(～19)		
	教科の指導法(中学校)	2		
	小 計		16(～21)単位	
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	12単位		
卒業研究	卒業研究	6単位		
合計			109(～114)単位	

注) 区分「所属専門科目16単位」では、それぞれ副免とする中学校免許の教科専門科目を履修してください。ただし、選択した教科によっては、二種免許でも免許取得に必要な教科専門科目の単位数が16単位を超える教科があります(保健体育21単位)。このことから、副免として選択した教科によっては、卒業最低単位数が上表の合計単位数(専門教育科目計109単位)を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目12単位」を活用して、免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお、副免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

(2)教育学・心理学・情報教育学の各サブコース<「小学校一種+中学校二種」免許を取得する場合>

コース 区分	小学校教育コース		別欄科目		
	「小学校一種+中学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数				
	科目名	単位数			
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育の思想	2	
	小計 1単位		教育の歴史	2	
			教育学特殊講義A	2	
教職専門科目	教職入門	2	別欄科目		
	教育概論	2	教育法規	2	
	学校安全学と防災教育	2	学校経営・制度論	2	
	教育・学校心理学	2			
	発達心理学	2			
	特別支援教育	2			
	右記別欄 から1科目選択必修	2			
	右記別欄 から1科目選択必修	2			
	道徳教育の理論と実践	2			
	総合的な学習の時間の理論と実践	2			
	特別活動の理論と方法	2			
	教育課程・教育方法論	2			
	教育におけるICT活用法	1			
	生徒指導・進路指導	2			
	教育相談	2			
	観察実習(小)	1			
	学校体験実習(小)	1			
	教育実習研究(小)	1			
	教育実習研究(中・高)	1			
	小学校教育実習	4			
	中学校教育実習	2			
	教職実践演習	2			
	プログラミング基礎	1			
		小計 42単位			
	教科専門科目	小学校算数	2		
		小学校理科	2		
		小学校体育A	1		
小学校英語		2			
小学校音楽A		1	} 5		
小学校国語		2			
小学校社会		2			
小学校図画工作		2			
小学校家庭科		2			
小学校生活科		2			
教科の指導法(小学校10教科)		20			
	小計 32単位				
所属専門科目	配属サブコースの科目から	10単位			
選択必修科目	中学校教科専門科目から	10(～19)			
	教科の指導法(中学校)	2			
	小計 12(～21)単位				
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	6単位			
卒業研究	卒業研究	6単位			
合計	109(～118)単位				

選択科目 について  
他学部の科目、国際教育科目、いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち、本学部の科目として認定できなかった科目を、選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。

注)区分「選択必修科目12単位」では、それぞれ副免とする中学校免許の教科専門科目を履修してください。  
「4.2.2(2)教科毎の科目・中・高」以降を参照。ただし、選択した教科によっては、二種免許でも免許取得に必要な教科専門科目の単位数が12単位を超える教科があります(技術15単位、理科14単位、音楽15単位、社会16単位、保健体育21単位)。このことから、副免として選択した教科によっては、卒業最低単位数が上表の合計単位数(専門教育科目計109単位)を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目6単位」を活用して、免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお、副免の取得についての詳細は、「4.副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

(3)教育学・心理学・情報教育学の各サブコース<「小学校一種+特別支援一種」免許を取得する場合>  
及び特別支援教育サブコース

コース 区分	小 学 校 教 育 コ ー ス		別 欄 科 目	
	「小学校一種+特別支援一種」免許を取得する場合の卒業要件単位数			
	科 目 名	単 位 数		
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育の思想	2
	小 計 1単位		教育の歴史	2
			教育学特殊講義A	2
教職専門科目	教職入門	2	別 欄 科 目	
	教育概論	2	教育法規	2
	学校安全学と防災教育	2	学校経営・制度論	2
	教育・学校心理学	2		
	発達心理学	2		
	特別支援教育	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	道徳教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育課程・教育方法論	2		
	教育におけるICT活用法	1		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談	2		
	観察実習(小)	1		
	学校体験実習(小)	1		
	教育実習研究(小)	1		
	小学校教育実習	4		
	教職実践演習	2		
プログラミング基礎	1			
	小 計 39単位			
教科専門科目	小学校算数	2		
	小学校理科	2		
	小学校体育A	1		
	小学校英語	2		
	小学校音楽A	1	} 5	
	小学校国語	2		
	小学校社会	2		
	小学校図画工作	2		
	小学校家庭科	2		
	小学校生活科	2		
	教科の指導法(小学校10教科)	20		
	小 計 32単位			
所属専門科目	配属サブコースの科目から	6単位	選択科目 について 他学部の科目,国際教育科目,いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち,本学部の科目として認定できなかった科目を,選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。	
選択必修科目	特別支援教育に関する科目	26単位		
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	2単位		
卒業研究	卒業研究	6単位		
合 計	112単位			

副免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## 2.2.2 中学校教育コース

### (1)「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合

コース 区分	中学校教育コース		別欄科目		
	「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数				
	科目名	単位数			
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育の思想	2	
		小計	教育の歴史	2	
		1単位	教育学特殊講義A	2	
教職専門科目	教職入門	2	別欄科目		
	教育概論	2	教育法規	2	
	学校安全学と防災教育	2	学校経営・制度論	2	
	教育・学校心理学	2			
	発達心理学	2			
	特別支援教育	2			
	右記別欄 から1科目選択必修	2			
	右記別欄 から1科目選択必修	2			
	道徳教育の理論と実践	2			
	総合的な学習の時間の理論と実践	2			
	特別活動の理論と方法	2			
	教育課程・教育方法論	2			
	教育におけるICT活用法	1			
	生徒指導・進路指導	2			
	教育相談	2			
	観察実習(中・高)	1			
	学校体験実習(中・高)	1			
	教育実習研究(中・高)	1			
	教育実習研究(小)	1			
	中学校教育実習	4			
小学校教育実習	2				
教職実践演習	2				
プログラミング基礎	1				
	小計	42単位			
教科専門科目	小学校算数	2	選択必修 4単位	4	
	小学校理科	2			
	小学校音楽A	1			
	小学校体育A	1			
	小学校英語	2			
	小学校国語	2			
	小学校社会	2			
	小学校図画工作	2			
	小学校家庭科	2			
	小学校生活科	2			
教科の指導法(小学校)	12				
	小計	16単位			
所属専門科目	各科で指定する中学校教科専門科目	30	選択科目 について 他学部の科目,国際教育科目,いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち,本学部の科目として認定できなかった科目を,選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。		
	教科の指導法(中学校)	8			
	小計	38単位			
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	4単位			
卒業研究	卒業研究	6単位			
合計		107単位			

副免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

(2)「中学校一種 + 中学校他教科二種」免許を取得する場合

コース 区分	中学校教育コース		別欄科目			
	「中学校一種+中学校他教科二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数					
	科目名	単位数				
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育の思想	2		
			教育の歴史	2		
	小計	1単位	教育学特殊講義A	2		
教職専門科目	教職入門	2	別欄科目			
	教育概論	2	教育法規	2		
	学校安全学と防災教育	2	学校経営・制度論	2		
	教育・学校心理学	2				
	発達心理学	2				
	特別支援教育	2				
	右記別欄 から1科目選択必修	2				
	右記別欄 から1科目選択必修	2				
	道徳教育の理論と実践	2				
	総合的な学習の時間の理論と実践	2				
	特別活動の理論と方法	2				
	教育課程・教育方法論	2				
	教育におけるICT活用法	1				
	生徒指導・進路指導	2				
	教育相談	2				
	観察実習(中・高)	1				
	学校体験実習(中・高)	1				
	教育実習研究(中・高)	1				
	中学校教育実習(主免)	4				
	中学校教育実習(副免・他教科)	2				
教職実践演習	2					
プログラミング基礎	1					
	小計	41単位	選択科目 について			
教科専門科目 【副免】	中学校教科専門科目(副免・他教科)	10(~19)	他学部の科目、国際教育科目、いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち、本学部の科目として認定できなかった科目を、選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。			
	教科の指導法(中学校(副免・他教科))	2				
	小計	12(~21)単位				
所属専門科目 (教科専門科目 (主免))	各科で指定する中学校教科専門科目(主免)	30				
	教科の指導法(中学校(主免))	8				
	小計	38単位				
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	8単位				
卒業研究	卒業研究	6単位				
合計	106(~115)単位					

注) 区分「教科専門科目【副免】」の12単位は、副免とする他教科の教科専門科目を履修してください。

「4.2.2(2)教科毎の科目・中・高」以降を参照。ただし、選択した教科によっては、二種免許でも免許取得に必要な教科専門科目の単位数が12単位を超える教科があります(理科14単位、音楽15単位、社会16単位、技術15単位、保健体育21単位)。このことから、副免として選択した教科によっては、卒業最低単位数が上表の合計単位数(専門教育科目計106単位)を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目 8単位」を活用して、免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお、副免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## 2.2.3 理数教育コース

(1) 小学校教育専修 <「小学校一種+中学校一種」免許を取得する場合>

コース・サブコース 専修	理数教育コース・理科及び数学サブコース		別欄 科目			
	小学校教育専修		教育の思想	2		
	「小学校一種+中学校一種」免許を取得する場合の卒業要件単位数					
区分	科目名	単位数	教育の歴史	2		
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育学特殊講義A	2		
	小計 1単位					
教職専門科目	教職入門	2	別欄 科目			
	教育概論	2	教育法規	2		
	学校安全学と防災教育	2			学校経営・制度論	2
	教育・学校心理学	2				
	発達心理学	2				
	特別支援教育	2				
	右記別欄 から1科目選択必修	2				
	右記別欄 から1科目選択必修	2				
	道徳教育の理論と実践	2				
	総合的な学習の時間の理論と実践	2				
	特別活動の理論と方法	2				
	教育課程・教育方法論	2				
	教育におけるICT活用法	1				
	生徒指導・進路指導	2				
	教育相談	2				
	観察実習(小)	1				
	学校体験実習(小)	1				
	教育実習研究(小)	1				
	教育実習研究(中・高)	1				
	小学校教育実習	4				
	中学校教育実習	2				
	教職実践演習	2				
	プログラミング基礎	1				
ICTを活用した理数教育	2					
	小計 44単位					
教科専門科目	小学校音楽A	1	10	}		
	小学校体育A	1				
	小学校英語	2				
	小学校国語	2				
	小学校社会	2				
	小学校図画工作	2				
	小学校家庭科	2				
	小学校生活科	2				
	教科の指導法(小学校10教科)	20				
		小計 30単位				
所属専門科目	各科で指定する中学校教科専門科目	20	選択科目 について 他学部の科目, 国際教育科目, いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち, 本学部の科目として認定できなかった科目を, 選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。			
	教科の指導法(中学校)	8				
	小計 28単位					
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	2単位				
卒業研究	卒業研究	6単位				
合計	111単位					

副免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

(2) 中学校教育専修 <「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合>

コース・サブコース 専修 区分	理数教育コース・理科及び数学サブコース		別欄 科目	
	中学校教育専修		教育の思想	2
	「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数			
転換教育科目	科目名	単位数	教育の歴史	2
	基礎ゼミナール	1	教育学特殊講義A	2
	小 計		1単位	
教職専門科目	教職入門	2	別欄 科目	
	教育概論	2	教育法規	2
	学校安全学と防災教育	2		
	教育・学校心理学	2	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 100%; width: 100%;"></div> </div>	
	発達心理学	2		
	特別支援教育	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	道徳教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育課程・教育方法論	2		
	教育におけるICT活用法	1		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談	2		
	観察実習(中・高)	1		
	学校体験実習(中・高)	1		
	教育実習研究(中・高)	1		
	教育実習研究(小)	1		
	中学校教育実習	4		
小学校教育実習	2			
教職実践演習	2			
プログラミング基礎	1			
ICTを活用した理数教育	2			
小 計		44単位		
教科専門科目	小学校音楽A	選択必修 4単位	1	} 4
	小学校体育A		1	
	小学校英語		2	
	小学校国語		2	
	小学校社会		2	
	小学校図画工作		2	
	小学校家庭科		2	
	小学校生活科		2	
	教科の指導法(小学校)	12	選択科目 について 他学部の科目,国際教育科目,いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち,本学部の科目として認定できなかった科目を,選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。	
小 計		16単位		
所属専門科目	各科で指定する中学校教科専門科目	28		
	教科の指導法(中学校)	8		
小 計		36単位		
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	6単位		
卒業研究	卒業研究	6単位		
合計	109単位			

副免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## 2.2.4 特別支援教育コース

(1)基礎免として小学校免許を取得する場合

コース 区分	特別支援教育コース		別欄 科目			
	基礎免として小学校免許を取得する場合の卒業要件単位数		科目名	単位数		
	科目名					
転換教育科目	基礎ゼミナール			1	教育の思想	2
	小計			1単位	教育の歴史	2
教職専門科目	教職入門			2	教育学特殊講義A	2
	教育概論			2	別欄 科目	
	学校安全学と防災教育			2	教育法規	2
	教育・学校心理学			2		
	発達心理学			2	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> </div>	
	特別支援教育			2		
	右記別欄 から1科目選択必修			2		
	右記別欄 から1科目選択必修			2		
	道德教育の理論と実践			2		
	総合的な学習の時間の理論と実践			2		
	特別活動の理論と方法			2		
	教育課程・教育方法論			2		
	教育におけるICT活用法			1		
	生徒指導・進路指導			2		
	教育相談			2		
	観察実習(小)			1		
	学校体験実習(小)			1		
	教育実習研究(小)			1		
	小学校教育実習			4		
教職実践演習			2			
プログラミング基礎			1			
	小計			39単位		
教科専門科目	小学校算数			2		
	小学校理科			2		
	小学校体育A			1		
	小学校英語			2		
	小学校音楽A		}	1	5	
	小学校国語			2		
	小学校社会			2		
	小学校図画工作			2		
	小学校家庭科			2		
	小学校生活科		2	2		
教科の指導法(小学校10教科)			20			
	小計			32単位		
所属専門科目	特別支援教育に関する科目			26単位		
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択			3単位		
卒業研究	卒業研究			6単位		
合計				107単位		

選択科目 について  
他学部の科目、国際教育科目、いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち、本学部の科目として認定できなかった科目を、選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。

基礎免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

(2)基礎免として中学校免許を取得する場合

コース 区分	特別支援教育コース		別欄 科目	
	基礎免として中学校免許を取得する場合の卒業要件単位数			
	科目名	単位数		
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育の思想	2
			教育の歴史	2
		小計	教育学特殊講義A	2
教職専門科目	教職入門	2	別欄 科目	
	教育概論	2	教育法規	2
	学校安全学と防災教育	2		
	教育・学校心理学	2	選択科目 について 他学部の科目,国際教育科目,いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち,本学部の科目として認定できなかった科目を,選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。	
	発達心理学	2		
	特別支援教育	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	道徳教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育課程・教育方法論	2		
	教育におけるICT活用法	1		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談	2		
	観察実習(中・高)	1		
	学校体験実習(中・高)	1		
	教育実習研究(中・高)	1		
中学校教育実習	4			
教職実践演習	2			
プログラミング基礎	1			
	小計	39単位		
教科専門科目	各科で指定する中学校教科専門科目	24		
	教科の指導法(中学校)	8		
	小計	32単位		
所属専門科目	特別支援教育に関する科目	26単位		
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	3単位		
卒業研究	卒業研究	6単位		
合計		107単位		

基礎免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## 2.3 教育実習の受講資格及び卒業研究の着手条件、履修科目登録単位の上限について

### 教育実習の受講資格

#### (1) 主免教育実習、基礎免教育実習、教育実習研究の受講資格

小学校教育コース、中学校教育コース、理数教育コースの学生が、主免教育実習及び教育実習研究を受講するためには、3年次開始時（又は受講しようとする年度の初め）までに、次の1.~3.の条件を満たしていることが必要である。

特別支援教育コースの学生が、卒業要件となる基礎免教育実習及び教育実習研究を受講するためには、3年次開始時（又は受講しようとする年度の初め）までに、次の1.~3.の条件を満たしていることが必要である。

1. 「基礎ゼミナール」、「教職入門」、「教育概論」、「生徒指導・進路指導」、「教育相談」、「観察実習」、「学校体験実習」を履修（単位取得）済みであること。
2. 実習する校種ごとに、以下の単位を履修（単位取得）済みであること。
  - ・小学校で実習をする場合は、小学校の教科の指導法から最低6単位を履修済みであること。
  - ・中学校で実習をする場合は、中学校の該当教科の教科指導法から最低2単位を履修済みであること。
3. 次に掲げる単位数以上の単位を取得済みであること。

教養教育科目	18単位
専門教育科目	30単位

#### (2) 副免教育実習の受講資格

小学校教育コース、中学校教育コース、理数教育コースの学生が、副免教育実習を受講するためには、副免教育実習を受講しようとする年度の初めまでに、次の1.と2.の条件を満たしていることが必要である。

1. 主免教育実習を履修済みであること。  
(ただし、4年次で主免教育実習と副免教育実習を同時に履修する場合に限り、主免教育実習と副免教育実習の同時履修を認めるものとする。)
2. 実習する校種ごとに、以下の単位を履修（単位取得）済みであること。
  - ・小学校で実習をする場合は、小学校の教科の指導法から最低6単位を履修済みであること。
  - ・中学校で実習をする場合は、中学校の該当教科の教科指導法から最低2単位を履修済みであること。
  - ・特別支援学校で実習をする場合は、「特別支援教育概説」を履修済みであること、及び「知的障害者の心理・生理・病理」、「知的障害教育課程論」、「知的障害教育指導法」の3科目から最低4単位を履修済みであること。

#### (3) 特別支援教育コースの特別支援学校での教育実習の受講資格

特別支援教育コースの学生が、特別支援学校で教育実習を受講するためには、特別支援教育実習を受講しようとする年度の初めまでに、次の1.と2.の条件を満たしていることが必要である。

1. 卒業要件となる基礎免教育実習を履修済みであること。  
(ただし、4年次で基礎免教育実習と特別支援教育実習を同時に履修する場合に限り、基礎免教育実習と特別支援教育実習の同時履修を認めるものとする。)
2. 「特別支援教育概説」を履修（単位取得）済みであること、及び「知的障害者の心理・生理・病理」、「知的障害教育課程論」、「知的障害教育指導法」の3科目から最低4単位を履修済みであること。

## (4) 卒業要件となっていない教員免許(その他の免許)取得のための教育実習の受講資格

卒業要件となっていない教員免許(その他の免許)を取得するための教育実習の受講には、教育実習を受講しようとする年度の初めまでに、次の1.と2.の条件を満たしていることが必要である。

1. 主免教育実習(小学校教育コース、中学校教育コース、理数教育コース)あるいは基礎免教育実習(特別支援教育コース)を履修済みであること。  
ただし、4年次で主免教育実習(基礎免教育実習)とその他の免許取得のための教育実習を同時に履修する場合に限り、主免教育実習(基礎免教育実習)との同時履修を認めるものとする。
2. 実習する校種ごとに、以下の単位を履修(単位取得)済みであること。
  - ・小学校で実習をする場合は、小学校の教科の指導法から最低6単位を履修済みであること。
  - ・中学校で実習をする場合は、中学校の該当教科の教科指導法から最低2単位を履修済みであること。
  - ・特別支援学校で実習をする場合は、「特別支援教育概説」を履修済みであること、及び「知的障害者の心理・生理・病理」、「知的障害教育課程論」、「知的障害教育指導法」の3科目から最低4単位を履修済みであること。

## 卒業研究の着手条件

### (1) 卒業研究の着手条件

学校教育教員養成課程のすべてのコースで、3年次終了時まで、次に掲げる単位数以上の単位を取得済みの場合、4年次4月から卒業研究に着手できる。

教養教育科目	22単位
専門教育科目	75単位

なお、3年次終了時まで上記単位数を取得できなかった場合には、単位数条件を満たした次の学期から卒業研究に着手できる。

### (2) 卒業研究期間

卒業研究の研究期間は、指導教員の指導のもとに少なくとも1年間を要するものとする。

### (3) 卒業研究論文の提出

卒業研究をまとめた論文(卒業研究論文)を、指定された日時までに学部長宛てに提出すること。なお、卒業研究論文は卒業制作、卒業演奏等に替えることができる。

## 履修科目登録単位の上限(CAP制)の特例

教育学部学生の履修登録単位数は、28単位を上限とするが、28単位の内、所属するコース又はサブコースにより取得を義務づけられた一つめの教育職員免許状の取得にかかる授業科目の登録は24単位を上限とする。なお、成績優秀者に認定されると、次の学期の履修は、一つめの教育職員免許状の取得に関する科目に関わらず28単位まで例外として履修登録することができる。

### 3. 授業科目及び履修年次

<注意事項> 標準履修年次について

以降の各ページに記載されている「標準履修年次」とは、あくまで履修が望ましい年次を示しているものであり、その年次以降であれば履修可能である。

例) 標準履修年次で2年前期の欄に が記されている科目の場合は、2年次だけでなく3年次、4年次でも履修できる。

#### 3.1 教職専門科目

<一覧表>

教員免許法上の区分		科目名	単位数	
教育の基礎的理解に関する科目	・教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	
	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育概論	2	
	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	別欄	教育の思想 教育の歴史 教育学特殊講義A	2 2 2
		選択	教育学演習A 教育学演習B	1 1
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	別欄	学校安全学と防災教育 教育法規 学校経営・制度論	2 2 2
		選択	いわての復興教育 教育学演習D 教育学演習E 教育学演習F	2 1 1 1
			小規模学校教育論	2
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学 発達心理学 心理学概論 教育心理学演習 発達心理学演習 障害者・障害児心理学	2 2 2 1 1 2	
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	
	道徳、生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と実践	2
・総合的な探究の時間の指導法		総合的な学習の時間の理論と実践	2	
・特別活動の指導法		特別活動の理論と方法	2	
・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程・教育方法論	2	
		教育学特殊講義B	2	
・教育の方法及び技術		教育学演習C 教育学演習G 授業実践研究 小学校実践研究	1 1 2 1	
・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育におけるICT活用法	1	
・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導(キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。)の理論及び方法		生徒指導・進路指導	2	
・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談 臨床心理学概論 心理演習 心理的アセスメント 心理学的支援法	2 2 1 1 1	
に教育実習 に教育実習 に教育実習	・教育実習	観察実習 学校体験実習 教育実習 教育実習研究	1 1 4 1	
	・教職実践演習	教職実践演習	2	
大学が独自に設定する科目	理数	プログラミング基礎 ICTを活用した理数教育	1 2	
	選択	STEAM教育実践演習	2	

<教職専門科目・個表>

科目名	コース・単位数												標準履修年次【備考1】				取得上限単位	免許法上の科目					
	小学校教育コース				中学校教育コース				理数教育コース				特別支援教育コース										
	小一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	中一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	中一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	中一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	中一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー			小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	1年	2年	3年	4年
教職入門	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・教職の意義及び教職の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項
教育概論	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教育の思想	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教育の歴史	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教育学特殊講義A	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教育学演習A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					3	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教育学演習B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					3	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
学校安全学と防災教育	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育法規	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
学校経営・制度論	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
いわたの復興教育	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育学演習D	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					3	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育学演習E	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					3	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育学演習F	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					3	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
小規模学校教育論	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育・学校心理学	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
発達心理学	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
心理学概論	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
教育心理学演習1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					2	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
発達心理学演習1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					2	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
障害者・障害児心理学	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 ・連携の理論及び指導法
特別支援教育	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 ・連携の理論及び指導法
道徳教育の理論と実践【備考2】	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・総合的な探究の時間の指導法
総合的な学習の時間の理論と実践	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・特別活動の指導法
特別活動の理論と方法【備考2】	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・コンセンサスを含む。） ・教育の方法及び技術
教育課程・教育方法論	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
教育学特殊講義B	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					1	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
教育におけるICT活用	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					3	・教育の方法及び技術
教育学演習C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					3	・教育の方法及び技術
教育学演習G	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					3	・教育の方法及び技術
授業実践研究	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	・教育の方法及び技術
小学校実践研究	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					1	・教育の方法及び技術



### 3. 2 教科専門科目（小学校科目）

#### 3. 2. (1) 小学校・教科に関する科目

科目名	コース・単位数				標準履修年次								免許法上の科目														
	小学校教育コース		中学校教育コース		理数教育コース		特別支援教育コース		1年					2年				3年				4年				取得 上限 単位	
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
小学校算数	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（算数）
小学校理科	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（理科）
小学校体育A	1				1				1																	1	小の教科に関する専門的事項（体育）
小学校英語	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（英語）
小学校音楽A	1				1				1																	1	小の教科に関する専門的事項（音楽）
小学校国語	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（国語 書写を含む。）
小学校社会	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（社会）
小学校図画工作	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（図画工作）
小学校家庭科	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（家庭）
小学校生活科	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（生活）
小学校音楽B	1				1				1																	1	小の教科に関する専門的事項（音楽）
小学校体育B	1				1				1																	1	小の教科に関する専門的事項（体育）
卒業要件	12	4	4	4	10	4	4	4	12	12																	

下記科目は選択科目であるが、教員として必要な内容が含まれている。それぞれ内容を確認し、各自必要に応じて履修することが望ましい。

- ・小学校音楽B = 小学校音楽科の教材のピアノ弾き歌いや読譜等の実技実習を行う。鍵盤楽器の未経験者を対象とする。
- ・小学校体育B = 体育の授業において有効と思われる教材や教具の開発を行い、その有効性を検証する実技を中心としたアクティブラーニングによって、改善・修正の過程を通じた実践的指導力の向上を図る授業をする。

### 3.2.(2) 小学校・教科の指導法

科目名	コース・単位数										標準履修年次												取得上限単位	免許上の科目
	小学校教育コース		中学校教育コース		理数教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年									
	小一 必修	小二 選択	小一 必修	小二 選択	小一 必修	小二 選択	小一 必修	小二 選択	小一 必修	小二 選択	前	後	前	後	前	後	前	後						
国語科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(国語)				
社会科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(社会)				
算数科教育法	2		2		2		2		2										2	小(算数)				
理科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(理科)				
生活科教育法	2		2		2		2		2										2	小(生活)				
音楽科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(音楽)				
図画工作科教育法	2		2		2		2		2										2	小(図画工作)				
家庭科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(家庭)				
体育科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(体育)				
英語科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(英語)				
卒業要件	20		12		20		12		20		12		20		12		20							

### 3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目

#### (1) 国語サブコース

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考													
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年															
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後														
教 科 専 門 科 目	日本語学概論 A	2	2		2		2																							
	日本語学概論 B	2	2		2		2																							
	日本語学講義 A	2		2		2		2																						
	日本語学講義 B	2		2		2		2																						
	日本語学講義 C	2		2		2		2																						
	日本語学講義 D	2		2		2		2																						
	日本語学特別演習 A	2		2		2		2																						
	国文学史 A	2	2	4		2		2																						
	国文学史 B	2				2		2																						
	国文学史 C	2				2		2																						
	国文学講義 A	2		2		2		2																						
	国文学講義 B	2		2		2		2																						
	国文学特別演習 A	2		2		2		2																						
	国文学特別演習 B	2		2		2		2																						
	国文学実地研究	2		2		2		2																						
	漢文学概論	2	2	2		2		2																						
	漢文学講義	2				2		2																						
	論語講読	2		2		2		2																						
	漢字の文化誌	2		2		2		2																						
	漢文学特別演習	2		2		2		2																						
	漢文学実地研究	2		2		2		2																						
	国語科特別演習	2		2	2																									
	国語科教育実践特別演習	2		2		2																								
	日本語学特殊講義	2		2		2		2																						
	国文学特殊講義	2		2		2		2																						
	漢文学特殊講義	2		2		2		2																						
書法基礎	2	2		2		2		2																						
卒業要件		10	4	18	12	16	8																							
			14		30		24																							

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考											
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年													
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後												
教 科 専 門 科 目	小学校国語	2		2		2		2																				
	国語科教育法(小)	2	2			2		2																				教科の指導法(小学校)
	国語科教育法	2	2		2		2		2																			教科の指導法(中学校)
	国語科教育法	2		2		2		2																				
	国語科教育法	2		2		2		2																				
卒業要件		4		8		8		8																				

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。



区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考	
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
教 科 専 門 科 目	経済学概論	2	***2		2		2											***どちらか1科目選択必修 小学校教育コースは2年前期で履修すること
	国際経済論	2		2		2		2										
	経済学特殊講義	2		2		2		2										
	哲学概論	2	****2		2		2											倫理学概論と隔年開講 ****どちらか1科目選択必修
	哲学史	2		2		2		2										倫理思想史と隔年開講
	倫理学概論	2	****2		2		2											哲学概論と隔年開講 ****どちらか1科目選択必修
	倫理思想史	2		2		2		2										哲学史と隔年開講
	哲学特殊講義 A	2		2		2		2										
	哲学特殊講義 B	2		2		2		2										
	倫理学特殊講義 A	2		2		2		2										
	倫理学特殊講義 B	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別演習 A	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別演習 B	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別演習 C	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別演習 D	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別演習 E	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別研究	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別研究	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別研究	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別研究	2		2		2		2										
	社会科教育学概論 A (地理歴史)	2		2	2		****2											****どちらか1科目選択必修
	社会科教育学特殊講義 A (地理歴史)	2		2		2		2										
	社会科教育学特殊講義 A (地理歴史)	2		2		2		2										
	社会科教育学特別演習 A (地理歴史)	2		2		2		2										2年に一度開講
	社会科教育学特別演習 A (地理歴史)	2		2		2		2										2年に一度開講
	社会科教育学特別演習 A (地理歴史)	2		2		2		2										2年に一度開講
	社会科教育学特別演習 A (地理歴史)	2		2		2		2										2年に一度開講
	社会科教育学概論 B (公民)	2		2	2		****2											****どちらか1科目選択必修
	社会科教育学特殊講義 B (公民)	2		2		2		2										
	社会科教育学特殊講義 B (公民)	2		2		2		2										
	社会科教育学特別演習 B (公民)	2		2		2		2										2年に一度開講
	社会科教育学特別演習 B (公民)	2		2		2		2										2年に一度開講
社会科教育学特別演習 B (公民)	2		2		2		2										2年に一度開講	
社会科教育学特別演習 B (公民)	2		2		2		2										2年に一度開講	
卒業要件		14		24	6	22	2											
		14		30	6	24												

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考	
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
教 科 専 門 科 目	小学校社会	2		2		2		2										
	社会科教育法 (小)	2	2			2		2										教科の指導法 (小学校)
	社会科教材研究法	2		2		2		2										教科の指導法 (中学校)
	中等社会科教育法 A (社会・地歴)	2	2			2		2										
	中等社会科教育法 B (社会・公民)	2				2		2										
	地理歴史科教育法	2		2		2		2										教科の指導法 (高校:地歴)
	公民科教育法	2		2		2		2										教科の指導法 (高校:公民)
卒業要件		4		8		8												

備考 標準履修年次の中の「 」は、その期間のいずれかに開講するもので、毎年、前・後期に必ず開講されるものではないことを示している。

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。



(4) 音楽サブコース

区分	科目名	コース・単位数						標準履修年次								備考			
		単位数	小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年				
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前		後		
教 科 専 門 科 目	ソルフェージュ A	1	1*	1*	1*	1*												*原則としてAは中学校、Bは小学校・特支コースを対象とする。	
	ソルフェージュ B	1																	
	ソルフェージュ A	1	1*	1*	1*	1*												*原則としてAは中学校、Bは小学校・特支コースを対象とする。	
	ソルフェージュ B	1																	
	声楽	1	1		1		1												小学校コースは2年前期、中学校コースは1年前期で履修。
	声楽	1		1		1													
	声楽	1		1		1													
	合唱	1	1		1		1												
	器楽 A	1	1		1		1												小学校コースは2年前期、中学校コースは1年前期で履修
	器楽 A	1		1		1													
	器楽 A	1		1		1													
	器楽 B	1		1		1													小学校コースは2年前期、中学校コースは1年前期から履修可
	器楽 B	1		1		1													
	器楽 B	1		1		1													
	器楽 B	1		1		1													
	伴奏法	1	1		1		1												原則として器楽Aを履修済みの学生を対象とする
	合奏 A	1	1		1		1												
	合奏 B	1		1		1													
	器楽 C	1	1		1		1												
	器楽 D	1		1		1													
	指揮法	1	1		1		1												
	音楽理論	2	2		2		2		中	小									小学校コースは1年後期、中学校コースは1年前期で履修
	音楽理論	2		2		2			中	小									小学校コースは2年後期、中学校コースは1年後期で履修
	作曲法	2	2		2		2												
	作曲法	2		2		2													
	音楽史	2	2		2		2												
	声乐演習	1		1		1													
	声乐演習	1		1		1													
	声乐演習	1		1		1													
	声乐演習	1		1		1													
器楽演習 A	1		1		1														
器楽演習 A	1		1		1														
器楽演習 A	1		1		1														
器楽演習 A	1		1		1														
器楽演習 B	1		1		1														
器楽演習 B	1		1		1														
器楽演習 B	1		1		1														
器楽演習 B	1		1		1														
作曲演習	1		1		1														
作曲演習	1		1		1														
作曲演習	1		1		1														
作曲演習	1		1		1														
音楽科教育学演習	1		1		1														
音楽科教育学演習	1		1		1														
音楽科教育学演習	1		1		1														
音楽科教育学演習	1		1		1														
卒業要件		14		19	11	13	11												
		14		30		24													

備考 個人指導の科目は、所属学生及び免許取得希望学生以外の選択を認めない。

区分	科目名	コース・単位数						標準履修年次								備考		
		単位数	小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前		後	
教 科 専 門 科 目	小学校音楽 A	1		1		1												
	小学校音楽 B	1		1		1												
	音楽科教育法(小)	2	2			2		2										教科の指導法(小学校)
	音楽科教育法	2	2			2		2										教科の指導法(中学校)
	音楽科教育法	2		2		2		2										
	音楽科教育法演習 A	1		1		1		1										
	音楽科教育法演習 B	1		1		1		1										
卒業要件		4		8		8												

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

(5) 美術サブコース

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考	
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
教 科 専 門 科 目	絵画基礎	2	2		2		2											小学校教育コースの学生は、1年前期には受講不可
	彫刻基礎	2	2		2		2											小学校教育コースの学生は、1年前期には受講不可
	デザイン基礎	A 2	2		2		2											小学校教育コースの学生は、1年前期には受講不可
	工芸基礎	2	2		2		2											
	美術史入門	2	2		2		2											
	造形特別演習(絵画)A	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講
	造形特別演習(絵画)B	2		2		2		2						*				*は隔年開講
	造形特別演習(絵画)C	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講
	造形特別演習(絵画)D	2		2		2		2						*				*は隔年開講
	造形実習(絵画)A	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(絵画)B	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(絵画)C	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(絵画)D	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(絵画)E	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(絵画)F	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形特別演習(彫刻)A	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講
	造形特別演習(彫刻)B	2		2		2		2						*				*は隔年開講
	造形特別演習(彫刻)C	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講
	造形特別演習(彫刻)D	2		2		2		2						*				*は隔年開講
	造形実習(彫刻)A	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(彫刻)B	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(彫刻)C	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(彫刻)D	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(彫刻)E	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(彫刻)F	1		1		1		1										3年に一度開講
	デザイン基礎	B 2	2		2		2		2									
	造形特別演習(デザイン)	2		2		2		2										
	造形特別演習(視覚文化)A	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講
	造形特別演習(視覚文化)B	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講
	造形実習(視覚文化)A	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(視覚文化)B	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(視覚文化)C	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形特別演習(工芸)A	2		2		2		2										備考1)参照
	造形特別演習(工芸)B	2		2		2		2										備考1)参照
	造形特別演習(工芸)C	2		2		2		2										備考1)参照
	造形特別演習(工芸)D	2		2		2		2										備考1)参照
	造形実習(工芸)A	1		1		1		1										備考2)参照
	造形実習(工芸)B	1		1		1		1										備考2)参照
	造形実習(工芸)C	1		1		1		1										備考2)参照
	造形実習(工芸)D	1		1		1		1										備考2)参照
美術史	2		2		2		2											
美術史	2		2		2		2											
美術史特別演習A	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講	
美術史特別演習B	2		2		2		2						*				*は隔年開講	
美術史特別演習C	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講	
美術史特別演習D	2		2		2		2						*				*は隔年開講	
色彩論特別演習	2		2		2		2											
美術科教育特別演習A	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講	
美術科教育特別演習B	2		2		2		2						*				*は隔年開講	
美術科教育特別演習C	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講	
美術科教育特別演習D	2		2		2		2						*				*は隔年開講	
卒業要件		10	4	10	20	10	14											
				14		30		24										

区分	科目名	コース・単位数						標準履修年次								備考			
		単位数	小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年				
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前		後		
教科専門科目	小学校図画工作	2		2		2		2											
	図画工作科教育法	2	2			2		2											教科の指導法（小学校）
	美術科教育法	2	2			2		2											教科の指導法（中学校）
	美術科教育法	2		2		2		2											
	美術科教育法	2		2		2		2											
	美術科教育法	2		2		2		2											
卒業要件			4		8		8												

免許については、「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

備考1) 造形特別演習(工芸) A・Cは窯芸の内容を、B・Dは染織の内容をそれぞれ扱う。

備考2) 造形実習(工芸) A・Cは窯芸の内容を、B・Dは染織の内容をそれぞれ扱う。

上記の科目は、道具及び作業スペースの都合上、受講者多数の場合、人数制限を行う。その場合、(人) 芸文プログラム(主専攻) 希望学生、(教) 美術免許取得学生、単位履修者を優先する。

造形特別演習(工芸)は、造形実習(工芸)を履修済みであることが望ましい。また、造形特別演習(工芸) C・Dは、造形特別演習(工芸) A・Bを履修済みであることが望ましい。



(7) 教育学サブコース

区分	科目名	コース・単位数						標準履修年次								備考	免許法上の科目		
		単位数	学校教育教員養成課程全学生		小一種+中二種		小一種+特支一種		1年		2年		3年		4年				
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前			後	
教職専門科目	教職入門	2	2																教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)
	教育概論	2	2																教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
	教育の思想	2	2		2		2											*	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
	教育の歴史	2	2		2		2											*	
	教育学特殊講義A	2	2		2		2											**	
	教育学演習A	1	3		3		3											***	
	教育学演習B	1	3		3		3											***	
	教育法規	2	2		2		2											*	
	学校経営・制度論	2	2		2		2											*	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
	教育学演習D	1	3		3		3											***	
	教育学演習E	1	3		3		3											***	
	教育学演習F	1	3		3		3											***	
	教育課程・教育方法論	2	2																
	教育学特殊講義B	2	2		2		2												**
	道徳教育の理論と実践	2	2																道徳の理論及び指導法
	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2																総合的な探究の時間の指導法
	特別活動の理論と方法	2	2																特別活動の指導法
	教育学演習C	1	3		3		3												***
	教育学演習G	1	3		3		3												***
授業実践研究	2	2		2		2												教育の方法及び技術	
卒業要件				10		6													

備考 \* 学校教育教員養成課程全体の卒業要件科目(別欄の選択必修2科目)とは別に2単位以上選択必修。

\*\* 学校教育教員養成課程全体の卒業要件科目(別欄の選択必修1科目)とは別に2単位以上選択必修。

\*\*\* 教育学演習A~Gから2種類以上、計2単位以上選択必修とする(「3」は上限単位数)。

標準履修年次中の「」は、その期間のいずれかに開講するもので、毎年、前・後期に必ず開講されるものではないことを示している。

区分	科目名	コース・単位数						標準履修年次								備考	免許法上の科目		
		単位数	学校教育教員養成課程全学生		小一種+中二種		小一種+特支一種		1年		2年		3年		4年				
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前			後	
教科専門科目	生活科教育法	2	小 2	中 2															教科の指導法(小学校)
	家庭科教育法(小)	2	2	2															教科の指導法(小学校)
	小学校生活科	2		2															教科に関する専門的事項(小学校・生活)
	小学校家庭科	2		2															教科に関する専門的事項(小学校・家庭)
卒業要件				10		6													

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。



(9) 情報教育学サブコース

区分	科目名	コース・単位数						標準履修年次								備考	免許法上の科目		
		単位数	学校教育教員養成課程全学生		小一種+中二種		小一種+特支一種		1年		2年		3年		4年				
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前			後	
教職専門科目	教育におけるICT活用法	1	1																情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
	プログラミング基礎	1	1																大学が独自に設定する科目
	STEAM教育実践演習	2		2	2		2												備考1)
教科専門	教育情報システム演習	2		2	2		2												備考2)
	基礎統計解析の理論と実践	2		2	2		2												
	多変量解析の理論と実践	2		2		2		2											備考3)
	情報社会と倫理	2		2	2			2											備考4)
	統計的機械学習実践	2		2	2			2											備考5)
卒業要件					10		6												
					10		6												

備考1 通年に2単位の科目であるが、後期については一部集中的に講義を開講する。実施日については4月のオリエンテーションで確認して日程調整すること。

備考2 ICT活用教育を含む。

備考3 原則「基礎統計解析の理論と実践」の単位取得してから履修すること。全員履修することが望ましい。

備考4 情報モラル教育を含む。

備考5 プログラミングを含む。

注1 中学校教諭二種免許状を取得する学生は、表中選択扱いになっている「多変量解析の理論と実践」も卒業要件の「選択科目」として履修することが望ましい。

注2 特別支援学校教諭の免許状を取得する学生は、表中選択扱いになっている3科目も卒業要件の「選択科目」等として履修することが望ましい。

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

(10) 特別支援教育サブコース(小学校教育コース)

区分	科目名	単位数				標準履修年次								備考	免許法上の科目					
		小一種+中二種		小一種+特支一種		1年		2年		3年		4年			特別支援学校教諭					
		必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後							
所属専門科目	特別支援教育概説	2		2													特別支援教育の基礎理論に関する科目			
	知的障害者の心理・生理・病理	2		2													心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	(中心となる領域)	知的障害者	
	特別支援心理検査法	2			2											知的障害者		知的障害者		
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2		2														肢体不自由者	病弱者	
	病弱者の心理・生理・病理	2		2														知的障害者	知的障害者	
	知的障害教育課程論	2		2														知的障害者	知的障害者	
	知的障害教育指導法	2		2														知的障害者	知的障害者	
	特別支援教育指導法	2		2														知的障害者	知的障害者	
	知的障害教育授業論	2			2													知的障害者	知的障害者	
	肢体不自由教育課程・指導法	2		2														肢体不自由者	病弱者	
	病弱教育課程・指導法	2	10	2															病弱者	
	特別支援教育実践論	2			2										原則、集中講義			・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害者	
	視覚障害教育総論	1		1													免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	視覚障害者	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	
	聴覚障害教育総論	1		1														聴覚障害者	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	
	言語障害教育総論	1		1														発達障害者(言語)	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	
	重複障害教育総論	1		1														重複	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	
	発達障害総論	1		1														発達障害者(自閉・情緒・LD・ADHD)	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	
	発達障害教育指導法	2			2													発達障害者(情緒・LD・ADHD)	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	
特別支援教育実習	2			2													心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習			
特別支援教育実習研究	1			1																
卒業要件		10		26	6															
		10		32																
		小一種+中二種		小一種+特支一種																

区分	科目名	単位数	学校教育教員養成課程全学生		標準履修年次								備考	免許法上の科目					
			必修	選択	1年		2年		3年		4年								
					前	後	前	後	前	後	前	後							
教職	特別支援教育	2	2														特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。



(2) 数学サブコース

区分	科目名	単位数	コース・専修・単位数						標準履修年次								備考				
			理数教育コース 小学校教育専修		理数教育コース 中学校教育専修		特別支援 教育コース		1年		2年		3年		4年						
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後					
教科 専門 科目	代 数 学	2	2		2		2														
	代 数 学	2	2		2		2														
	代 数 学	2		2		2		2													
	代 数 学	2		2		2		2													
	幾 何 学	2	2		2		2														
	幾 何 学	2	2		2		2														
	幾 何 学	2		2		2		2													
	幾 何 学	2		2		2		2													
	解 析 学	2	2		2		2														
	解 析 学	2	2		2		2														
	解 析 学	2		2		2		2													
	確 率 論 入 門	2	2		2		2														
	ブ ロ グ ラ ミ ン グ 入 門	2	2		2		2														
	代 数 学 各 論	2		2	} 2 } 8		2														中学校教育専修所属者は、この中から最低2単位選択すること。
	幾 何 学 各 論	2		2			2														
	解 析 学 各 論	2		2			2														
	応 用 数 学	2		2			2														
	数 学 教 育	2		2		2		2													
	代 数 学 特 別 講 義	4		4	} 4																
	幾 何 学 特 別 講 義	4		4																	
解 析 学 特 別 講 義	4		4																		
数 学 教 育 特 別 講 義	4		4																		
卒 業 要 件		16	4	22	6	16	8														
		20		28		24															

区分	科目名	単位数	コース・専修・単位数						標準履修年次								備考				
			理数教育コース 小学校教育専修		理数教育コース 中学校教育専修		特別支援 教育コース		1年		2年		3年		4年						
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後					
教 職	I C T を 活 用 し た 理 数 教 育	2	2		2																大学が独自に設定する科目：小学校、中学校（理科・数学）、高等学校（理科・数学）に使用できる免許科目
教 科 専 門 科 目	小 学 校 算 数	2		2	2		2														
	算 数 科 教 育 法	2	2		2		2														教科の指導法（小学校）
	数 学 科 教 育 法	2	2		2		2														教科の指導法（中学校）
	数 学 科 教 育 法	2	2		2		2														
	数 学 科 教 育 法	2	2		2		2														
卒 業 要 件		12		10		8															

- 備考 1 ここに示された順序に従って履修すること。標準履修年次中の「 」はその期間のいずれかに開講することを示している。
- 2 所属学生は、卒業研究のため代数学、幾何学、解析学、数学教育の各特別講義の一つを選択すること。
- 3 数学教育及び数学教育特別講義は、免許取得に必要とされる「教科専門科目（教科に関する専門的事項）」の科目（20単位）には属さないため履修には留意されたい。（-63ページ参照）
- 免許については、「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

### 3.5 特別支援教育コースの開講科目

区分	科目名	単位数		標準履修年次								備考	免許法上の科目			
		単位数	小学校基礎免許 中学校基礎免許		1年		2年		3年		4年		特別支援学校教諭			
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前		後			
所属専門科目	特別支援教育概説	2	2											特別支援教育の基礎理論に関する科目		
	知的障害者の心理・生理・病理	2	2											心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	(中心となる領域) 知的障害者	
	特別支援心理検査法	2	2												知的障害者	
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2	2												肢体不自由者	
	病弱者の心理・生理・病理	2	2												病弱者	
	知的障害教育課程論	2	2												知的障害者	
	知的障害教育指導法	2	2												知的障害者	
	特別支援教育指導法	2	2												知的障害者	
	知的障害教育授業論	2	2												知的障害者	
	肢体不自由教育課程・指導法	2	2												肢体不自由者	
	病弱教育課程・指導法	2	2											病弱者		
	特別支援教育実践論	2	2										原則、集中講義	特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	
	視覚障害教育総論	1	1												知的障害者	
	聴覚障害教育総論	1	1											免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	
	言語障害教育総論	1	1												聴覚障害者	
	重複障害教育総論	1	1												発達障害者(言語)	
	発達障害総論	1	1											心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	重複	
発達障害教育指導法	2	2											発達障害者(自閉・情緒・LD・ADHD)			
特別支援教育実習	2	2											心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	発達障害者(情緒・LD・ADHD)		
特別支援教育実習研究	1	1														
卒業要件		26														

区分	科目名	単位数	学校教育教員養成課程全学生	標準履修年次								備考	免許法上の科目
				1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
教職	特別支援教育	2	2										特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

備考 基礎免許として中学校を選択する場合、履修状況や卒業要件単位数などを確認する際は、「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」又は「3.4 理数教育コースの開講科目」にある各教科の「特別支援教育コース」欄を見ること。

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

## 4 . 副免及びその他の教員免許の取り方について

小学校教育コース、中学校教育コース、理数教育コースの学生は、それぞれの所属コースの定めにより、主免となる教員免許に加えて副免となる教員免許の取得が卒業の要件となっています。特別支援教育コースの学生は、特別支援学校の教員免許に加えて、基礎免として小学校教員免許あるいは中学校教員免許のいずれかを取得することが卒業要件となっています。

また、卒業の要件としては二種免許の取得を課されている場合、さらに必要な単位を修得することにより一種免許を取得することができます。この他、卒業要件以外の教員免許についても所定の単位を修得することにより免許の取得が可能です。

以下、コース毎に教員免許の取得について記載します。

### < 副免及びその他の教員免許の取り方についての基本的な考え方 >

主免と副免の組み合わせパターンは、すでに『履修の手引き』「1.4 課程等の紹介」「2.1 卒業要件単位数」の項で説明したように、コース(サブコース)ごとに異なります。また、同じ一つの組み合わせパターンであっても、副免として取得しようとする免許の種類によって具体的に履修すべき科目内容が異なってきます。けれども副免に関する科目を履修する際の基本的な考え方は共通していますので、この項ではその概要を説明します。

以下の 4.2 では教員免許取得のために必要な単位の一覧表が掲載されています(4.2.1 は小学校教員免許、4.2.2 は中学校教員免許 / 高等学校教員免許)。ここで留意していただきたいのは、副免用にすべての科目を新たに最初から履修するというのでは決してなく、すでに主免用に履修した科目で副免用の科目としてもカウントできるものもあります。教職専門科目などは多くの場合これに該当します。

副免について考えるときにまず皆さんに行っていただきたいのは、「4.2 教員免許取得のための必要単位」をよく確認し、取得しようとする免許に必要な科目を調べ、その中からすでに主免として履修済みの科目(教職専門科目など)を差し引いた上で、副免用に新たに履修しなくてはならない科目を特定してください。

なお、ここまでの説明は、「副免」を例にして進めてきましたが、「その他の免許」の場合にもそのままあてはまりますので、必要に応じて「副免」を「その他の免許」に読み替えてください。

### 4 . 1 コース毎の教員免許の取得について

#### 4 . 1 . 1 小学校教育コース

##### (1) 国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる小学校教員免許(一種)及び副免となる中学校教員免許(二種)を取得することができます。

ここで保健体育については、「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.1(1)の区分：所属専門科目16単位と、「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の保健体育サブコース欄に記載されている卒業要件単位数21単位が異なってい

ますが、必ず「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従ってください。これは中学校教員免許（二種）を取得するための教科専門科目の最低修得単位数が、保健体育（21単位）であるため、「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.1(1) 中の区分：所属専門科目16単位では免許取得に必要な最低修得単位数を満たさないためです。

中学校教員免許を一種免許にする場合を含め、卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

## （2）教育学・心理学・情報教育学の各サブコース

### < 中学校教員免許（二種）を副免とする場合 >

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる小学校教員免許（一種）を取得することができます。

副免を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」以降に記載された科目の単位を修得する必要があります。「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.1(2) 中の区分：選択必修科目12単位を利用して、副免とする中学校教員免許の教科専門科目を取ります。ただし教科によっては教科専門科目の最低修得単位数が12単位を超える教科があるので、その場合には「4.2教員免許取得のための必要単位」以降の各教科の記載に従い、教科専門科目の最低修得単位数以上の科目の単位を修得してください。（教科専門科目の最低修得単位数：国語（12）、社会（16）、技術（15）、英語（12）、音楽（15）、美術（12）、保健体育（21）、理科（14）、数学（12））

中学校教員免許を一種免許にする場合を含め、卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

### < 特別支援学校教員免許（一種）を副免とする場合 >

教育学サブコース、心理学サブコース及び情報教育学コースの学生は、「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる小学校教員免許（一種）を取得することができます。また「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.1(3) 中の区分：選択必修科目26単位を利用して、「4.2教員免許取得のための必要単位」以降に記載された特別支援学校欄の科目の単位を修得することにより、副免となる特別支援学校教員免許（一種）が取得できます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

## （3）特別支援教育サブコース

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる小学校教員免許（一種）及び副免となる特別支援学校教員免許（一種）を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」

に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

#### 4.1.2 中学校教育コース

##### (1) 小学校教員免許(二種)を副免とする場合

「2.教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる中学校教員免許(一種)及び副免となる小学校教員免許(二種)を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

##### (2) 主免と異なる教科の中学校教員免許(二種)を副免とする場合

「2.教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる教科の中学校教員免許(一種)を取得することができます。副免を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」以降に記載された該当教科の科目の単位を修得する必要があるため、「2.教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.2(2)中の区分：教科専門科目【副免】12単位を利用して、副免とする中学校教員免許の教科専門科目を取ります。ただし教科によっては教科専門科目の最低修得単位数が12単位を超える教科があるので、その場合には「4.2教員免許取得のための必要単位」以降の各教科の記載に従い、教科専門科目の最低修得単位数以上の科目の単位を修得してください。(教科専門科目の最低修得単位数：国語(12)、社会(16)、技術(15)、英語(12)、音楽(15)、美術(12)、保健体育(21)、理科(14)、数学(12))

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

#### 4.1.3 理数教育コース

##### (1) 小学校教育専修

「2.教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.4 理数教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる小学校教員免許(一種)及び副免となる中学校教員免許(一種)を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

##### (2) 中学校教育専修

「2.教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.4 理数教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる中学校教員免許(一種)及び副免となる小学校教員免許(二種免)を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」

に記載された科目の単位を修得する必要があり、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

#### 4.1.4 特別支援教育コース

##### (1) 小学校教員免許(一種)を基礎免とする場合

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.5 特別支援教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、基礎免となる小学校教員免許(一種)及び特別支援学校教員免許(一種)を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要があり、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

##### (2) 中学校教員免許(一種)を基礎免とする場合

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.5 特別支援教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、特別支援学校教員免許(一種)を取得することができます。基礎免は、「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.4(2)中の区分：教科専門科目32単位を利用して、「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」または「3.4 理数教育コースの開講科目」から、基礎免として選択する教科の「特別支援教育コース」欄に従い単位を修得することにより、中学校教員免許(一種)を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要があり、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

## 4.2 教員免許取得のための必要単位

教員免許の取得に必要な科目・単位を以下にまとめて示します。

### 4.2.1 小学校教員免許

#### (1) 一覧表

	二種免許	単位数	一種免許	単位数
教職 専門 科目	教職入門	2	教職入門	2
	教育概論	2	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2	発達心理学	2
	特別支援教育	2	特別支援教育	2
	教育の思想、教育の歴史、教育学特殊 講義Aから1科目	2	教育の思想、教育の歴史、教育学特殊 講義Aから1科目	2
	教育法規 又は 学校経営・制度論	2	教育法規 又は 学校経営・制度論	2
	道德教育の理論と実践	2	道德教育の理論と実践	2
	総合的な学習の時間の理論と実践	2	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1	教育におけるICT活用法	1
	生徒指導・進路指導	2	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2	教育相談	2
	教育実習研究(小)	1	教育実習研究(小)	1
小学校教育実習	2	小学校教育実習	2	
教職実践演習	2	教職実践演習	2	
教科 専門 科目	教科専門科目(小学校)注1)	4	教科専門科目(小学校)注1)	10
	教科の指導法(小学校)注2)	12	教科の指導法(小学校)注2)	20
大学 が独 自に 設定 する 科目	プログラミング基礎	1	プログラミング基礎	1
合計		51		65

注1) 「教科専門科目(小学校)」(選択必修)の具体的な科目は、次ページ別表(2)教科専門科目(小学校)を参照すること。

注2) 「教科の指導法(小学校)」の具体的な科目は、次ページ別表(3)教科の指導法(小学校)を参照すること。二種免許の12単位の選択必修においては、音楽、図画工作、体育のうちから必ず2科目以上を履修すること。

別表（２）教科専門科目（小学校）

教科専門科目	単位数
小学校算数	2
小学校理科	2
小学校音楽A	1
小学校体育A	1
小学校英語	2
小学校国語	2
小学校社会	2
小学校図画工作	2
小学校家庭科	2
小学校生活科	2
小学校音楽B	1
小学校体育B	1

別表（３）教科の指導法（小学校）

教科専門科目	単位数
・国語科教育法（小）	2
・社会科教育法（小）	2
・算数科教育法	2
・理科教育法（小）	2
・生活科教育法	2
・音楽科教育法（小）	2
・図画工作科教育法	2
・家庭科教育法（小）	2
・体育科教育法（小）	2
・英語科教育法（小）	2

二種免許の12単位の選択必修においては、音楽、図画工作、体育のうちから必ず2科目以上を履修すること。

4.2.2 中学校教員免許 / 高等学校教員免許

(1) 一覧表

	中学校二種免許	単位数	中学校一種免許	単位数	高等学校一種免許	単位数
教職 専門 科目	教職入門	2	教職入門	2	教職入門	2
	教育概論	2	教育概論	2	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2	学校安全学と防災教育	2	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2	教育・学校心理学	2	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2	発達心理学	2	発達心理学	2
	特別支援教育	2	特別支援教育	2	特別支援教育	2
	教育の思想、教育の歴史、教育学特殊講義Aから1科目	2	教育の思想、教育の歴史、教育学特殊講義Aから1科目	2	教育の思想、教育の歴史、教育学特殊講義Aから1科目	2
	教育法規 又は 学校経営・制度論	2	教育法規 又は 学校経営・制度論	2	教育法規 又は 学校経営・制度論	2
	道德教育の理論と実践	2	道德教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2	総合的な学習の時間の理論と実践	2	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2	特別活動の理論と方法	2	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2	教育課程・教育方法論	2	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1	教育におけるICT活用法	1	教育におけるICT活用法	1
	生徒指導・進路指導	2	生徒指導・進路指導	2	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2	教育相談	2	教育相談	2
	教育実習研究(中・高)	1	教育実習研究(中・高)	1	教育実習研究(中・高)	1
中学校教育実習	2	中学校教育実習	2	中学校教育実習	2	
教職実践演習	2	教職実践演習	2	教職実践演習	2	
教科 専門 科目	教科に関する専門的事項	10~19	教科に関する専門的事項	20	教科に関する専門的事項	20
	教科の指導法(中学校)		教科の指導法(中学校)		教科の指導法(中学校)	
大学 が独 自に 設定 する 科目	プログラミング基礎	1	プログラミング基礎	1	プログラミング基礎	1
					下記注2)を参照して修得すること。	
合計		47~56		63		59

注1) 教科専門科目(教科に関する専門的事項及び教科の指導法)の具体的な科目は、「(2)教科毎の科目・中・高」以降を参照して、単位を修得すること。

注2) (2)教科毎の科目・中・高の各教科の「高校一種」欄で選択科目となっている科目又は、別表(2)各免許校種の「大学が独自に設定する科目」に使用できる科目(65ページ)で、高校に使用できる科目から2単位を選択。

(2)教科毎の科目・中・高  
 中学校(国語)、高等学校(国語)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (国語)		中学校二種 (国語)		高校一種 (国語)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む)	日本語学概論A	} 2	2	} 2	2	} 2	2
	日本語学概論B						
国語学	日本語学講義A		2		2		2
	日本語学講義B		2		2		2
	日本語学講義C		2		2		2
	日本語学講義D		2		2		2
	日本語学特別演習A		2		2		2
	日本語学特殊講義		2		2		2
国文学 (国文学史含む)	国文学史A	} 2	4	} 2	4	} 2	4
	国文学史B						
	国文学史C						
国文学	国文学講義A		2		2		2
	国文学講義B		2		2		2
	国文学特別演習A		2		2		2
	国文学特別演習B		2		2		2
	国文学実地研究		2		2		2
	国文学特殊講義		2		2		2
漢文学	漢文学概論	} 2	2	} 2	2	} 2	2
	漢文学講義						
	論語講読		2		2		2
	漢字の文化誌		2		2		2
	漢文学実地研究		2		2		2
	漢文学特別演習		2		2		2
	漢文学特殊講義		2		2		2
書道 (書写を中心とする)	書法基礎	2		2			
	合計	8	12	8	2	6	14

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (国語)		中学校二種 (国語)		高校一種 (国語)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法 (国語)	国語科教育法	2		2		2	
	国語科教育法	2			2	2	
	国語科教育法	2			2		2
	国語科教育法	2			2		2
	合計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (国語)		中学校二種 (国語)		高校一種 (国語)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (国語)	国語科教育実践特別演習		2		2		2

中学校(社会)、高等学校(地理歴史)(公民)

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種(社会)		中学校二種(社会)		高校一種(地理歴史)		高校一種(公民)		備考
教科に関する専門的事項			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
中学校	高校										
日本史	日本史	日本史概論 A	2		2		2				
		日本史概論 B		2		2		2			
		日本近現代史		2		2		2			
		考古学概論		2		2		2			
		考古学特殊講義		2		2		2			
外国史	外国史	西洋史概論	(2)		(2)		2				注1：選択必修
		西洋史外書講読 A		2		2		2			
		西洋史外書講読 B		2		2		2			
		西洋史外書講読 C		2		2		2			
		西洋史外書講読 D		2		2		2			
		西洋史特別演習 A		2		2		2			
		西洋史特別演習 B		2		2		2			
		西洋史特別演習 C		2		2		2			
		西洋史特別演習 D		2		2		2			
		西洋史特別研究		2		2		2			
		西洋史特別研究		2		2		2			
		西洋史特別研究		2		2		2			
		西洋史特別研究		2		2		2			
		西洋史特別研究		2		2		2			
		東洋史概論	(2)		(2)		2				
地理学	人文地理学	人文地理学概論 A	(2)		(2)		2				注1：選択必修
		人文地理学概論 B		2		2		2			
	自然地理学	自然地理学概論 A	(2)		(2)		2				注1：選択必修
		自然地理学概論 B		2		2		2			
	人文地理学及び自然地理学	地理学特別演習 A		2		2		2			
		地理学特別演習 A		2		2		2			
		地理学特別演習 A		2		2		2			
		地理学特別演習 B		2		2		2			
		地理学特別演習 B		2		2		2			
		地理学特別演習 B		2		2		2			
		地理学実習 A		1		1		1			
		地理学実習 A		1		1		1			
		地理学実習 A		1		1		1			
		地理学実習 B		1		1		1			
		地理学実習 B		1		1		1			
地誌学	地誌学	2		2		2					

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (社会)		中学校二種 (社会)		高校一種 (地理歴史)		高校一種 (公民)		備考	
教科に関する専門的事項			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
中学校	高校											
法学	法律学(国際法を含む)	法学概論	(2)		(2)				(2)		注1: 選択必修 注2: 選択必修	
		人権と教育		2		2				2		
	法律学	法と人権実習		1		1					1	
		法学特別演習 A		2		2					2	
		法学特別演習 B		2		2					2	
		法学特別演習 C		2		2					2	
		法学特別演習 D		2		2					2	
		法学特別演習 E		2		2					2	
		法学特殊講義 A		2		2					2	
法学特殊講義 B		2		2					2			
政治学	政治学	現代政治と公民教育	(2)		(2)				(2)		注1: 選択必修 注2: 選択必修	
	国際政治学	国際政治学		2		2			(2)		注2: 選択必修	
社会学	社会学	社会学概論	(2)		(2)				(2)		注1: 選択必修 注2: 選択必修	
		社会学特殊講義 A		2		2				2		
		社会学特殊講義 B		2		2					2	
		社会学特別演習 A		2		2					2	
		社会学特別演習 A		2		2					2	
		社会学特別演習 A		2		2					2	
		社会学特別演習 A		2		2					2	
		社会学特別演習 A		2		2					2	
		社会学特別演習 B		2		2					2	
		社会学特別演習 B		2		2					2	
		社会学特別演習 B		2		2					2	
		社会学特別演習 B		2		2					2	
		社会学特別演習 B		2		2					2	
経済学	経済学	経済学概論	(2)		(2)				(2)		注1: 選択必修 注2: 選択必修	
		経済学特殊講義		2		2				2		
	国際経済	国際経済論		2		2			(2)		注2: 選択必修	
哲学、倫理学	哲学、倫理学	哲学概論	(2)		(2)				(2)		注1: 選択必修 注2: 選択必修	
		哲学史		2		2				2		
		哲学特殊講義 A		2		2				2		
		哲学特殊講義 B		2		2				2		
		倫理学概論	(2)		(2)				(2)		注1: 選択必修 注2: 選択必修	
		倫理学特殊講義 A		2		2				2		
		倫理学特殊講義 B		2		2				2		
		倫理思想史		2		2				2		
		哲学・倫理学特別演習 A		2		2				2		
		哲学・倫理学特別演習 B		2		2				2		
		哲学・倫理学特別演習 C		2		2				2		
哲学・倫理学特別演習 D		2		2				2				
哲学・倫理学特別演習 E		2		2				2				

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (社会)		中学校二種 (社会)		高校一種 (地理歴史)		高校一種 (公民)		備考
中学校	高校		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
哲学、倫理学	哲学、倫理学	哲学・倫理学特別研究		2		2	/	/		2	
		哲学・倫理学特別研究		2		2				2	
		哲学・倫理学特別研究		2		2				2	
		哲学・倫理学特別研究		2		2				2	
		哲学・倫理学特別研究		2		2				2	
合計			14	6	14		12	8	6~10*	14~10*	

注1：中学校社会一種または二種免許取得の場合、選択必修 の科目から1科目、選択必修 から1科目、選択必修 から1科目、  
選択必修 から1科目、選択必修 から1科目選択すること。

注2：高校一種（公民）免許取得の場合、選択必修 は「法学概論」または「現代政治と公民教育」+「国際政治学」（2科目両方選択）」のいずれか  
を選択、選択必修 は「社会学概論」または「経済学概論」+「国際経済論」（2科目両方選択）」のいずれかを選択、選択必修 は2科目から  
いずれか1科目を選択すること。

\* 高校一種（公民）は、注2の選択の組合せによって「必修6単位/選択14単位」、「必修8単位/選択12単位」、「必修10単位/選択10単位」となります。

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (社会)		中学校二種 (社会)		高校一種 (地理歴史)		高校一種 (公民)							
教科の指導法			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択						
中学校の教科指導法（社会）	社会科教材研究法	2		2	6	/	/	/	/	/						
	社会科学習内容構築論	2														
中・高の教科指導法（社会・地歴）	中等社会科教育法A（社会・地歴）	2											2			
中・高の教科指導法（社会・公民）	中等社会科教育法B（社会・公民）	2													2	
高校の教科指導法（地歴）	地理歴史科教育法					2										
高校の教科指導法（公民）	公民科教育法							2								
合計		8		2		4		4								

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (社会)		中学校二種 (社会)		高校一種 (地理歴史)		高校一種 (公民)	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (社会)	社会科教育学概論A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学概論B（公民）		2		2					2
	社会科教育学特殊講義A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学特殊講義A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学特殊講義B（公民）		2		2					2
	社会科教育学特殊講義B（公民）		2		2					2
	社会科教育学特別演習A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学特別演習A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学特別演習A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学特別演習A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学特別演習B（公民）		2		2					2
	社会科教育学特別演習B（公民）		2		2					2
	社会科教育学特別演習B（公民）		2		2					2
	社会科教育学特別演習B（公民）		2		2					2

中学校(技術)、高等学校(情報)

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (技術)		中学校二種 (技術)		高校一種 (情報)		標準履修年次
教科に関する専門的事項			必修	選択	必修	選択	必修	選択	
中学校	高校								
材料加工(実習を含む)	/	木材加工(製図を含む)	2		2		/	/	2年次前期
		機械材料学	2		2		/	/	2年次前期
		金属加工(製図を含む)	1		1		/	/	2年次後期
機械・電気(実習を含む)	/	機械工学	1		1		/	/	2年次前期
		電気電子工学	1		1		/	/	2年次前期
生物育成	/	栽培理論	2		2		/	/	2年次前期
		栽培理論		2		2	/	/	2年次後期
		作物生産論		2		2	/	/	2年次前期(隔年)
		栽培学実験		1		1	/	/	2年次前期(隔年)
情報とコンピュータ	コンピュータ・情報処理	統計的機械学習実践	2		2			2	3年次前期
		教育情報システム演習	2			2		2	2年次前期
		情報工学	2		2		2		2年次前期
		情報工学		2		2		2	3年次後期
		プログラミング演習		2		2		2	2年次後期
		多変量解析の理論と実践		2		2		2	3年次後期
		基礎統計解析の理論と実践		2		2		2	2年次後期
	情報社会と倫理	2			2	2		2	2年次後期
情報社会(職業に関する内容を含む。) ・情報倫理	セキュリティとプライバシー	/	/	/	/		2	理工学部開設科目、 4年次前期	
	情報職業論	/	/	/	/		1	理工学部開設科目、 4年次前期	
情報システム	/	情報システム概論	/	/	/	/	2		3年次前期
		データベース	/	/	/	/	2		理工学部開設科目、 4年次前期
情報通信ネットワーク	/	情報通信ネットワーク演習	/	/	/	/	2		3年次後期
		コンピュータネットワーク	/	/	/	/	2		理工学部開設科目、 4年次後期
マルチメディア表現・マルチメディア技術	/	メディアシステム	/	/	/	/	2		理工学部開設科目、 4年次前期
		コンピュータグラフィックス	/	/	/	/	2		理工学部開設科目、 4年次前期
合計			17	3	13		10	10	

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (技術)		中学校二種 (技術)		高校一種 (情報)		標準履修年次
教科の指導法			必修	選択	必修	選択	必修	選択	
中学校	高校								
中学校の教科指導法(技術)	/	技術科教育法	2		2		/	/	2年次前期
		技術科教育法	2			2	/	/	2年次後期
		技術科教育法	2			2	/	/	3年次前期
		技術科教育法	2			2	/	/	3年次後期
高校の教科指導法(情報)	/	情報教育法	/	/	/	/	2		2年次後期
		情報教育法	/	/	/	/	2		3年次前期
合計			8		2		4		

中学校(英語)、高等学校(英語)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (英語)		中学校二種 (英語)		高校一種 (英語)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
英語学	英語学の世界		2		2		2
	英語の文法	2		2		2	
	英語学特別演習		2		2		2
	英語学特別講義 A		2		2		2
	英語学特別講義 B		2		2		2
英語文学	英語文学概論	2		2		2	
	英語文学特別演習		2		2		2
	英語文学特別演習		2		2		2
	英語文学特別講義 A		2		2		2
	英語文学特別講義 B		2		2		2
英語コミュニケーション	英語音声学講義		2		2		2
	英語音声学特別演習		2		2		2
	英語表現特別演習(S)		2		2		2
	英語表現特別演習(S)		2		2		2
	英語表現特別演習(W)	2		2		2	
	英語表現特別演習(W)		2		2		2
	英語表現特別研究 A		2		2		2
	英語表現特別研究 B		2		2		2
英語表現特別研究 C		2		2		2	
異文化理解	異文化理解	2		2		2	
	英語インターンシッププログラム A		2		2		2
	英語インターンシッププログラム B		2		2		2
	合 計	8	12	8	2	8	12

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (英語)		中学校二種 (英語)		高校一種 (英語)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法(英語)	英語科教育法	2		2		2	
	英語科教育法	2			2	2	
	英語科教育法	2			2		2
	英語科教育法	2			2		2
	合 計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (英語)		中学校二種 (英語)		高校一種 (英語)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (英語)	英語科教育法特別演習		2		2		2
	英語科教育法特別演習		2		2		2
	英語科教育法特別講義 A		2		2		2
	英語科教育法特別講義 B		2		2		2

- 備考 1 英語表現特別演習(W)は、必ず ・ の順序で履修すること。  
 2 英語表現特別演習(S) ・ の履修順序の指定はありません。  
 3 英語科教育法は、 ・ ・ の順序で履修すること。

中学校(音楽)、高等学校(音楽)

免許法上の区分等 教科に関する専門的事項	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (音楽)		中学校二種 (音楽)		高校一種 (音楽)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
ソルフェージュ	ソルフェージュA	} 1		} 1		} 1	
	ソルフェージュB						
	ソルフェージュA	} 1		} 1		} 1	
	ソルフェージュB						
声乐(日本の伝統的な歌唱法を含む)	声乐	1		1		1	
声乐	声乐		1		1		1
	声乐		1		1		1
	声乐		1		1		1
合唱	合唱	1		1		1	
声乐	声乐演習		1		1		1
	声乐演習		1		1		1
	声乐演習		1		1		1
	声乐演習		1		1		1
器楽	器楽A	1		1		1	
	器楽A		1		1		1
	器楽A		1		1		1
	器楽A		1		1		1
	器楽B		1		1		1
	器楽B		1		1		1
	器楽B		1		1		1
	器楽B		1		1		1
伴奏	伴奏法	1		1		1	
合奏(和楽器を含む)	合奏A	1		1		1	
合奏	合奏B		1		1		1
器楽	器楽C		1		1		1
	器楽D		1		1		1
	器楽演習A		1		1		1
	器楽演習A		1		1		1
	器楽演習A		1		1		1
	器楽演習A		1		1		1
	器楽演習B		1		1		1
	器楽演習B		1		1		1
	器楽演習B		1		1		1
	器楽演習B		1		1		1
指揮法	指揮法	1		1		1	
音楽理論	音楽理論	2		2		2	
	音楽理論		2		2		2
作曲法(編曲法を含む)	作曲法	2		2		2	
	作曲法		2		2		2
作曲法	作曲演習		1		1		1
	作曲演習		1		1		1
	作曲演習		1		1		1
	作曲演習		1		1		1
音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	音楽史	2		2		2	
	合計	13	7	13		13	7

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (音楽)		中学校二種 (音楽)		高校一種 (音楽)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法(音楽)	音楽科教育法	2			2	2	
	音楽科教育法	2		2		2	
	音楽科教育法	2			2		2
	音楽科教育法演習A	1			1		1
	音楽科教育法演習B	1			1		1
	合 計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (音楽)		中学校二種 (音楽)		高校一種 (音楽)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (音楽)	音楽科教育学演習		1		1		1
	音楽科教育学演習		1		1		1
	音楽科教育学演習		1		1		1
	音楽科教育学演習		1		1		1

備考1 中学校音楽の二種免許取得希望者は音楽科教育法 を必ず履修すること。

2 高等学校音楽の免許取得希望者は音楽科教育法 ・ を必ず履修すること。

中学校(美術)、高等学校(美術)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (美術)		中学校二種 (美術)		高校一種 (美術)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
絵画 (映像メディア表現を含む)	絵画基礎	2		2		2	
絵画	造形特別演習(絵画)A		2		2		2
	造形特別演習(絵画)B		2		2		2
	造形特別演習(絵画)C		2		2		2
	造形特別演習(絵画)D		2		2		2
	造形実習(絵画)A		1		1		1
	造形実習(絵画)B		1		1		1
	造形実習(絵画)C		1		1		1
	造形実習(絵画)D		1		1		1
	造形実習(絵画)E		1		1		1
	造形実習(絵画)F		1		1		1
彫刻	彫刻基礎	2		2		2	
	造形特別演習(彫刻)A		2		2		2
	造形特別演習(彫刻)B		2		2		2
	造形特別演習(彫刻)C		2		2		2
	造形特別演習(彫刻)D		2		2		2
	造形実習(彫刻)A		1		1		1
	造形実習(彫刻)B		1		1		1
	造形実習(彫刻)C		1		1		1
	造形実習(彫刻)D		1		1		1
	造形実習(彫刻)E		1		1		1
	造形実習(彫刻)F		1		1		1
	デザイン (映像メディア表現を含む)	デザイン基礎A	2		2		2
デザイン	デザイン基礎B		2		2		2
	造形特別演習(デザイン)		2		2		2
	造形特別演習(視覚文化)A		2		2		2
	造形特別演習(視覚文化)B		2		2		2
	造形実習(視覚文化)A		1		1		1
	造形実習(視覚文化)B		1		1		1
	造形実習(視覚文化)C		1		1		1
	色彩論特別演習		2		2		2

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (美術)		中学校二種 (美術)		高校一種 (美術)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
工芸	工芸基礎	2		2			
	造形特別演習(工芸)A		2		2		
	造形特別演習(工芸)B		2		2		
	造形特別演習(工芸)C		2		2		
	造形特別演習(工芸)D		2		2		
	造形実習(工芸)A		1		1		
	造形実習(工芸)B		1		1		
	造形実習(工芸)C		1		1		
	造形実習(工芸)D		1		1		
美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む)	美術史入門	2		2		2	
美術理論・美術史	美術史		2		2		2
	美術史		2		2		2
	美術史特別演習A		2		2		2
	美術史特別演習B		2		2		2
	美術史特別演習C		2		2		2
	美術史特別演習D		2		2		2
	合 計	10	10	10		8	12

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (美術)		中学校二種 (美術)		高校一種 (美術)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法(美術)	美術科教育法	2		2	6	2	
	美術科教育法	2				2	
	美術科教育法	2					2
	美術科教育法	2					2
	合 計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (美術)		中学校二種 (美術)		高校一種 (美術)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (美術)	美術科教育特別演習A		2		2		2
	美術科教育特別演習B		2		2		2
	美術科教育特別演習C		2		2		2
	美術科教育特別演習D		2		2		2

中学校(保健体育)、高等学校(保健体育)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (保健体育)		中学校二種 (保健体育)		高校一種 (保健体育)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
教科に関する専門的事項	基礎体育実技(体づくり運動含む)	1		1		1	
	体育実技A(水泳含む)	1		1		1	
	体育実技B(冬季スポーツ含む)		1		1		1
	体育実技C(陸上競技含む)	1		1		1	
	体育実技D(器械運動含む)	1		1		1	
	体育実技E(武道含む)	1		1		1	
	体育実技F(ダンス含む)	1		1		1	
	体育実技G(球技含む)	1		1		1	
	体育実技H(球技含む)		1		1		1
	体育実技I(球技含む)		1		1		1
	体育実技J(球技含む)		1		1		1
体育原理	体育学A(体育原理含む)	2	6	2	6	2	6
体育心理学	体育学B(体育心理学含む)						
体育経営管理学	体育学C(体育経営管理学含む)						
体育社会学	体育学D(体育社会学含む)						
運動学 (運動方法学を含む)	運動学(運動方法学含む)	2		2		2	
生理学 (運動生理学を含む)	生理学(運動生理学含む)	2		2		2	
衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2		2		2	
学校保健(小児保健、精神保健、学校安全を含む)	学校保健A(小児保健・精神保健・学校安全含む)	2		2		2	
学校保健 (救急処置を含む)	学校保健B(救急処置含む)	2		2		2	
	合計	19	1	19		19	1

いずれか1科目選択必修。

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (保健体育)		中学校二種 (保健体育)		高校一種 (保健体育)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
教科の指導法	保健体育科教育法	2		2		2	
	保健体育科教育法	2			2	2	
	保健体育科教育法	2			2		2
	保健体育科教育法	2			2		2
	合計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (保健体育)		中学校二種 (保健体育)		高校一種 (保健体育)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (保健体育)	体育学実験		1		1		1
	体育学特別演習		2		2		2

中学校(理科)、高等学校(理科)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (理科)		中学校二種 (理科)		高校一種 (理科)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
物理学	物理学 A	2		2		2	
	物理学 B		2		2		2
	古典力学		2		2		2
	電磁気学		2		2		2
	量子力学		2		2		2
	相対性理論		2		2		2
化学	化学 A	2		2		2	
	化学 B		2		2		2
	化学特講 A		2		2		2
	化学特講 B		2		2		2
	化学特講 C		2		2		2
	化学演習 A		1		1		1
	化学演習 B		1		1		1
	化学演習 C		1		1		1
	化学演習 D		1		1		1
生物学	生物学 A	2		2		2	
	生物学 B		2		2		2
	分子生物学		2		2		2
	生物学演習 A		1		1		1
	生物学演習 B		1		1		1
	生命科学演習 A		1		1		1
	生命科学演習 B		1		1		1
地学	地学 A	2		2		2	
	地学 B		2		2		2
	岩石学		2		2		2
	造岩鉱物の識別法		2		2		2
	地学野外巡検		1		1		1
物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	物理学実験	1		1		(1)	
	物理学実験		1		1	(1)	
	化学実験	1		1		(1)	
	化学実験		1		1	(1)	
	化学専門実験		1		1		1
	生物学実験	1		1		(1)	
	生物学実験		1		1	(1)	
	分子生物学実験		1		1		1
	地学実験	1		1		(1)	
	地学実験		1		1	(1)	
	合 計	12	8	12		10	10

注:高校免許の( )は物理学実験・、化学実験・、生物学実験・、地学実験・のいずれかの科目について、・セットで2単位履修すること。2単位を超えて修得した単位は選択の10単位に使用できる。

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (理科)		中学校二種 (理科)		高校一種 (理科)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法 (理科)	理科教育法	2		2		2	
	理科教育法	2			2	} 2	2
	理科教育法	2			2		
	理科教育法	2			2		
	合 計	8		2		4	

いずれか1科目選択必修

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (理科)		中学校二種 (理科)		高校一種 (理科)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (理科)	理科教育特講		2		2		2
	理科教育特講		2		2		2
	理科教育特講		2		2		2
	理科教育学特別演習		2		2		2
	理科教育学特別演習		2		2		2
	理科教育学特別演習		2		2		2

中学校(数学)、高等学校(数学)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (数学)		中学校二種 (数学)		高校一種 (数学)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
代数学	代数学	2		2		2	
	代数学		2		2		2
	代数学		2		2		2
	代数学		2		2		2
	代数学各論		2		2		2
	* 代数学特別講義		4		4		4
幾何学	幾何学	2		2		2	
	幾何学		2		2		2
	幾何学		2		2		2
	幾何学		2		2		2
	幾何学各論		2		2		2
	* 幾何学特別講義		4		4		4
解析学	解析学	2		2		2	
	解析学		2		2		2
	解析学		2		2		2
	解析学		2		2		2
	応用数学		2		2		2
	解析学各論		2		2		2
	* 解析学特別講義		4		4		4
「確率論、統計学」	確率論入門	2		2		2	
コンピュータ	プログラミング入門	2		2		2	
	合 計	10	10	10		10	10

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (数学)		中学校二種 (数学)		高校一種 (数学)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法 (数学)	数学科教育法	2		2		2	
	数学科教育法	2			2	2	
	数学科教育法	2			2		2
	数学科教育法	2			2		2
	合 計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (数学)		中学校二種 (数学)		高校一種 (数学)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (数学)	数学教育		2		2		2
	* 数学教育特別講義		4		4		4

\* 各特別講義は、数学サブコース所属学生以外の学生は履修不可。

- 備考1 代数学、幾何学、解析学、数学科教育法は、原則としてそれぞれ . . . の順序で履修すること。
- 2 代数学、幾何学、解析学については、小学校教育コース1年次の学生は履修の対象外とする。その他のコースの学生については、数学の免許取得を希望する場合のみ1年次から履修対象とする。

#### 4.2.3 特別支援学校教員免許

小学校または中学校の教員免許の取得とともに以下の科目の単位を修得することで特別支援学校教員免許（一種）が取得できます。

一種免許	単位数
特別支援教育概説	2
知的障害者の心理・生理・病理	2
肢体不自由者の心理・生理・病理	2
病弱者の心理・生理・病理	2
知的障害教育課程論	2
知的障害教育指導法	2
特別支援教育指導法	2
肢体不自由教育課程・指導法	2
病弱教育課程・指導法	2
視覚障害教育総論	1
聴覚障害教育総論	1
言語障害教育総論	1
重複障害教育総論	1
発達障害総論	1
特別支援教育実習	2
特別支援教育実習研究	1
合 計	26

教育学部で取得できる特別支援学校の教員免許状の種類（教育領域）は、「知的障害者、肢体不自由者、病弱者に関する教育の領域」です。

別表（２）各免許校種の「大学が独自に設定する科目」に使用できる科目

教員免許法上の区分		科目名	単位数	小学校	中学校	高等学校	
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	別欄	教育の思想	2			
			教育の歴史	2			
			教育学特殊講義 A	2			
		選択	教育学演習 A	1			
			教育学演習 B	1			
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	別欄	教育法規	2			
			学校経営・制度論	2			
		選択	いわての復興教育	2			
			教育学演習 D	1			
			教育学演習 E	1			
			教育学演習 F	1			
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		小規模学校教育論	2			
		心理学概論	2				
		教育心理学演習	1				
		発達心理学演習	1				
		障害者・障害児心理学	2				
生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育学特殊講義 B	2			
	・教育の方法及び技術		教育学演習 C	1			
			教育学演習 G	1			
			授業実践研究	2	×		
	小学校実践研究	1		×	×		
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		臨床心理学概論	2				
		心理演習	1				
		心理的アセスメント	1				
		心理学的支援法	1				
大学が独自に設定する科目		STEAM教育実践演習	2				

注) 「×」印は、各免許校種の免許状を取得するための「大学が独自に設定する科目」に使用できない。

## 5 日本語教育副専攻科目について

グローバル化が進む中で、帰国・外国人児童生徒などに対する日本語指導の必要性はますます増大しています。日本語教育の基礎を身につけた人材は、日本語学校にとどまらず小・中・高等学校や地域社会から、広く求められています。

教育学部では、日本語教員養成に関して文部科学省が示した標準的な教育内容（副専攻）に基づき、日本語教育副専攻科目を以下のとおり開講します。所定の副専攻科目の単位を履修し単位を修得した者に対しては、日本語教育副専攻を修了したものと認め、卒業時に「日本語教育副専攻単位修得証明書」を授与します。

科目区分	科目名	単位数	備考欄	必修 / 選択必修	最低取得単位数
転換教育科目	基礎ゼミナール	1		必修	1
教養教育科目	外国語科目（必修8単位から2単位充当）	1		必修	2
日本語教育副専攻科目 下記の表を参照	日本語教育概論I	2		必修	2
	日本語教育概論	2		必修	2
	学校教育を受けるための日本語	2		必修	2
	日本語教育実習事前指導	1		必修	1
	日本語教育実習	1		必修	1
	日本語教授法講義	2		必修	2
	日本語教授法講義	2		必修	2
教科専門科目（国語）	日本語学概論A	2		選択必修	4
	日本語学概論B	2			
	日本語学講義A	2			
	日本語学講義B	2			
	日本語学特殊講義	2			
教科専門科目（英語）	異文化理解	2		選択必修	2
人文社会科学部 人間文化課程開設科目	異文化コミュニケーション論A	2	隔年・前期		
	異文化コミュニケーション論B	2	隔年・後期		
	異文化コミュニケーション論C	2	隔年・前期		
	異文化コミュニケーション論D	2	隔年・後期		
教養教育科目	言語学	2	注)	必修	2
教養教育科目	多文化コミュニケーションA	2		選択必修	2
	多文化コミュニケーションB	2			
教職専門科目	発達心理学	2		選択必修	2
	教育・学校心理学	2			
合 計					27

注)「言語学」は指定のクラスを履修すること。詳細は掲示を参照すること。

### < 日本語教育副専攻科目 >

区分	科目名	コース・単位数		標準履修年次								備考		
		単位数	全コース		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前		後	
日本語支援科目	日本語教育概論	2		2										教員免許取得の科目としては使用できません。
	日本語教育概論	2		2										
	日本語教授法講義	2		2										
	日本語教授法講義	2		2										
	日本語教育実習事前指導	1		1										
	日本語教育実習	1		1										
	学校教育を受けるための日本語	2		2										

この表にない科目は、「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」のページから確認すること。

# 国際教育科目について

## 国際教育科目について

### 1. 国際教育科目の理念と教育目標

岩手大学では、次の2種類の内容の「国際教育科目」を開講しています。

#### 共修科目群

概要・目的：本学の海外交流協定大学からの交換留学生や日本語・日本文化研修留学生等と本学の学生が共修し、日本や国際社会についての知識を高め、それらについての討論、体験などを通じて、主体的に行動する態度を涵養することを目的とします。授業は日本語または英語で行われます。

対象：本学の海外交流協定大学からの交換留学生、本学の各学部在籍する日本人学生及び外国人留学生在が履修できます。本学の学部生がこの科目を履修した場合、専門教育科目の自由選択科目として卒業要件の単位が認められる場合がありますので、学務課に確認のうえ履修してください。

#### < 共修科目群リスト >

科目区分	授業科目名	単位数	対象学年	開講学期	備考
文化	Comparative Japanese History A	2	1	前期	英語
	Comparative Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese History A	2	1	前期	英語
	Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese Traditional Culture A - Ikebana A	2	1	前期	英語
	Japanese Traditional Culture B- Ikebana B	2	1	後期	英語
国際研修	海外研修事前事後指導	2	2	前期 後期	教養教育科目「海外研修 世界から地域を考える」履修者対象
	学内留学	2	2、3、4	後期	
	国際合宿	2	2、3、4	前期	集中

対象学年以上の学生が履修可能です。

備考欄に「英語」とある科目は英語で授業を行います。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講予定です。

講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

### 交換留学生専用科目群

概要・目的：本学に在籍する外国人留学生のために、初級から上級まで5レベルの日本語教育、および地域学や研究に関する国際教育を実施します。

対象：本学の海外協定大学からの交換留学生、日本語・日本文化研修留学生に単位が認められます。また、科目区分「日本語」の科目は本学に在学する全ての外国人留学生が受講することができますが、正規学部留学生には単位は認められません。総合科学研究科の正規留学生が「アカデミック日本語」\*として登録した科目については単位が認められます。

### < 交換留学生専用科目群 >

#### 日本語

授業科目名	単位数	開講学期	備考
初級日本語総合	10	前期・後期	月～金×2 コマ
初級日本語総合漢字	1	前期・後期	月・木×0.5 コマ
初級日本語 会話	1	前期・後期	
初級日本語 表記・読解	1	前期・後期	
初級日本語 文法	1	前期・後期	
初級日本語 文法	1	前期・後期	
初級日本語 漢字	1	前期・後期	
初級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 文法	1	前期・後期	
中級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 読解	1	前期・後期	
中級日本語 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 作文	1	前期・後期	
中級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 文法	1	前期・後期	
中級日本語 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 アカデミック日本語	1	前期・後期	
中級日本語 読解	1	前期・後期	
中級日本語 作文	1	前期・後期	
上級日本語ビジネス日本語	1	前期・後期	
上級日本語アカデミック日本語	1	前期・後期	

## 国際教育

授業科目名	単位数	開講学期	備考
理系研究 A	2	前期	
理系研究 B	2	後期	
特別研究 A	3	前期	大学院科目
特別研究 B	3	後期	大学院科目
農学系研究	1	前期・後期	
農学系特別研究 1	1	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 2	2	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 3	3	前期・後期	大学院科目
芸術系研究	2	前期	
芸術系研究	2	前期	
芸術系研究	2	後期	
芸術系研究	2	後期	
芸術系特別研究	2	前期	大学院科目
芸術系特別研究	2	前期	大学院科目
芸術系特別研究	2	後期	大学院科目
芸術系特別研究	2	後期	大学院科目
岩手学 A	2	前期	
岩手学 B	2	後期	
個別研究	2	前期・後期	文系・芸術系科目

時間割、単位数、履修手続き、試験、成績評価等については、「岩手大学における国際教育科目に関する要項」その他に定めます。

## 2. 履修方法および開設授業科目

履修については、本冊子及び時間割を参考にし、大学からのお知らせ、中央掲示板および国際課前の掲示等に注意して、間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については、当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部、学科、課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や、年度により開設しない科目があるので注意してください。

# その他プログラムについて

## 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（MDASH 認定教育プログラム）

本学は「岩手大学ビジョン 2030」の教育目標及び第 4 期中期目標・中期計画のアクションプランで「社会における様々なデータを数理・統計・情報を用いて解析し、社会における課題を発見し解決することができる能力を身につけるため教養教育と専門教育を融合させた数理・データサイエンス・AIに係る教育の体系化の確立」を掲げています。このアクションプラン実現のため、教養教育と各学部の専門教育では、数理・データサイエンス・AIに関する授業科目を開設しています。新しい時代の「読み・書き・そろばん」とされる数理・データサイエンス・AIに係る知識やスキルは、理系学部生の必須能力に留まらず、人文社会科学分野の文系の学生においても必須能力となっています。特に近年成長著しいAIは、今後の社会を大きく変革するゲームチェンジャーになると考えられています。このようなことから、本学では、在籍するすべての学生が関係する知識やスキルを習得し、実践的に活用できる能力を身につけられる教育プログラムとしています。

本学では、令和 4 年度に文部科学省から、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定制度(MDASH)による「リテラシーレベル」の認定を受けています。リテラシーレベルは、教養教育科目の必修科目で対応しているため、全学生が認定されます。また、MDASH「応用基礎レベル」の教育プログラムは、教養教育科目と各学部の専門教育科目で構成されており、学部の専門性を活かした教育プログラムとなっています。令和 6 年度には教育学部の教育プログラムが認定され、令和 5 年度入学生から適用されています。人文社会科学部、理工学部、農学部、獣医学部（令和 6 年度入学生までは農学部共同獣医学科）については令和 6 年度入学生から同教育プログラムを開始しており、令和 7 年度に認定されました。

なお、令和 7 年度から入学する理工学部、農学部の学生については、「応用基礎レベル」の科目がすべて必修科目となっています。「応用基礎レベル」の認定科目はいずれも基礎的な内容であり、データエビデンスに基づく問題解決能力等の実践力を形成するために、認定科目の多くを演習形式としています。選択的に履修することになる人文社会科学部、教育学部、獣医学部の学生の積極的な履修を期待します。

本教育プログラムにより身につけることのできる能力や対象授業科目、修了要件等は本学ホームページで確認してください。

リテラシーレベル



<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/ds.html>

応用基礎レベル



<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/mdash-AL.html>

## IHATOVO グローバルコースについて

### 1. IHATOVO グローバルコースの理念と教育目標

岩手大学国際教育センターでは、岩手に顕在化する課題をグローバルな視点から理解し、解決に貢献し、発信する力の養成をめざし、「IHATOVO グローバルコース」を企画・運営しています。このコースの参加によって「知識・探求力」、「コミュニケーション力」、「人間力」を向上させ、地域社会、国際社会で活躍する人材を育成します。

### 2. コースの構成

コースは、A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践の4つのカテゴリーに分類された、授業および課外活動で構成されています。各授業、活動に参加すると、Global Mileage が付与されます。

A～Dのすべてのカテゴリーのいずれかの授業、課外活動に最低1つ参加し、一定程度のGlobal Mileage を獲得した者にはIHATOVO グローバルコース履修認定証を授与します。コース認定されなくても、Global Mileage の獲得実績に応じて表彰します。また、海外研修、留学などの際にインセンティブを与えることがあります。

### 3. コースの評価・認定方法

認定要件を満たした学生には、学長から認定証を授与し、記念品を贈呈します。また、毎学期、学年別に Global Mileage 獲得上位者を表彰し、記念品およびオープンバッジを贈呈します。

\* 一定以上のマイル獲得後、海外研修、留学に行く場合は、海外派遣奨学金、留学のための語学検定試験の受験料補助などの奨学資金を支給します。

\* マイルの獲得実績を、海外研修、留学等の参加要件(成績、単位数、面接評価等)に加えることもあります。

#### < 認定方法 >

1) A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践、の4領域すべての授業、活動をそれぞれ最低1つずつ履修、参加していること

2) マイルの合計が一定のマイル数に到達していること

ブロンズ = 800 マイル   シルバー = 1200 マイル   ゴールド = 2000 マイル

### <認定基準>

総取得マイル数に応じ、ブロンズ、シルバー、ゴールドの3段階で認定します。

ランク	外国語	コミュニケーション	国際教養	実践	合計マイル数
ブロンズ	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	800マイル
シルバー	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	1200マイル
ゴールド	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	2000マイル

#### 4. 履修方法および開設授業科目・課外活動

IHATOVO グローバルコース対象授業科目の履修については、国際教育センターホームページ、大学からのお知らせ、アイアシスタントおよび国際課（学生センターB棟）の掲示等で確認してください。

対象学年以上の正規学生が履修可能です。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講します。

講師の都合等により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

IHATOVO グローバルコース対象課外活動リスト及び詳細については、以下を参照願います。

<https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/japanese-student/index.html>



# イーハトーヴ協創コースについて

## 1. イーハトーヴ協創コースの理念と教育目標

岩手大学では、全学部の学生を対象とした共修プログラム（ ）「イーハトーヴ協創コース」を開講しています。

岩手大学（前身の盛岡高等農林学校）の卒業生である宮沢賢治の想い「世界がぜんたい幸福に  
ならないうちは個人の幸福はあり得ない」(Well-being)を受け継ぎ、誰一人取り残さない持続可  
能な社会の実現を目指し、岩手で生きる、岩手と縁のある地域の多様な方々との協創活動を通  
じ、心の豊かさとイノベーションマインドを併せ持ち、高い専門性と実践力を兼ね備えたレジリ  
エントな人材を育成します。

（ ）共修プログラムとは？

自身が所属する主専攻（学部）以外の分野を系統的に学修するプログラムです。

### （1）コースの概要

イーハトーヴ協創コースでは、教養教育科目を中心に、デザイン思考、マーケティング、  
プロジェクトマネジメント、課題解決型インターンシップなど、アントレプレナーシップ  
（起業家精神）の醸成や、地域のイノベーションに必要な創造性やチャレンジ精神を高める  
ための科目、企業・自治体との提携講義を学部横断型で学びます。

さらに地域における実践活動（正課外）も併せて評価することで、専門性と実践力を身に  
つけます。

これらの学修過程を可視化するため、「地域協創マイレージ」を導入し、正課教育に加え正  
課外活動を含めてポイント化し、履修・研修経験を段階的に評価します（地域協創マイレ  
ージの取得状況は「アイフォリオ」で確認することができます。

### （2）コースの受講対象者、登録・認定方法

- ・ 本学の各学部 に在籍する日本人学生及び外国人留学生（非正規生を除く）が履修できま  
す。
- ・ コースは自動エントリー制であり、履修をするための特段の手続きは不要です。
- ・ コースに関連する科目の単位を取得した場合や、課外活動を実施し所定の手続きを行った場  
合、「地域協創マイレージ」が自動的に付与されます。
- ・ 修了認定要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることが出来  
ます。

## 2. コースの構成

### （1）正課教育

「イーハトーヴ協創コース関連科目」に指定されている以下の科目から受講します。なお、  
授業科目には、必修科目とコア（選択必修）科目、選択科目の3種類があり、段階ごとに修得  
すべき単位数が定められていますので、注意してください。

なお、正課教育で取得した単位は1単位 = 50 地域協創マイレージに換算します。

## コースの構成

必修・選択の別		科目名称	科目区分
必修科目		地域協創入門	教養（地域）
コア科目 （選択必修）	1単位	地域協創 A・B・C・D・E・F・G・H・I	教養（地域）
	2単位	社会連携学 A・B、 キャリアを考える A・B キャリアデザイン実践 地域課題演習 A・B・C・D インターカレッジ・フィールド実践演習	教養（地域/地域課題演習）
選択科目（教養）		コア科目及び探究知科目（環境科目、地域科目）・実践知科目（地域課題演習科目）から選択	教養（環境/地域/地域課題演習）
選択科目（専門）		各学部専門科目におけるイーハトーヴ協創コース関連科目から選択	専門

## 開講科目

イーハトーヴ協創コース関連科目リスト及び詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

対象学年以上の学生が履修可能です。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講する場合があります。

講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

## （2）正課外活動

- 地域課題解決プログラム、学内カンパニー、NEXT STEP 工房など本学が実施・支援する実践活動プログラムや、イーハトーヴ協創ラボ（TOVLAB）及びグローバルビレッジ等でのイベント参加、他大学や他機関との連携プログラム等について、以下の基準に基づき「地域協創マイレージ」を付与します。

### < 地域協創マイレージの算定基準（標準的な目安） >

正課・課外の別	主な事業	付与マイル数
正課教育	イーハトーヴ協創コース関連科目 1単位科目	50
	イーハトーヴ協創コース関連科目 2単位科目	100
正課外活動	単発型のイベント	10
	3日程度の短期イベント	50
	3日以上～1週間程度の中長期イベント	100
	インターンシップ、通年の実践活動（メンバーの一人として参画）	150
	長期研修・長期インターンシップ、通年の実践活動（リーダーとして参画）	300

地域協創マイレージの対象事業等の詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

### 3. コースの評価・認定方法

- ・ 修了認定要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。
- ・ 修了が認定されると、成績証明書の特記事項欄に「イーハトーヴ協創コース（受講中または修了）」と記載されます。
- ・ また、本学が提供する学習プログラム等の修了者に対してデジタル修了証である「オープンバッジ」を付与する予定です。
- ・ 大学時代に経験した実践的な取組を就職や進学の際にアピールするものとしての効果が期待できます。
- ・ 認定証と併せ、就職活動等に活用可能なコース概要説明書を発行します。

#### (1) 認定方法

- ・ イーハトーヴ協創コース関連科目事業における主な修得能力を5つのカテゴリーに分類し、それぞれの「地域協創マイレージ」取得状況に基づき評価します。

マインドセット
ツール
キャリア
アクション
専門知識

- ・ 各カテゴリーから、該当する授業、活動を最低1つずつ取得していることが認定要件となります。
- ・ マイレージの認定について、授業は自動認定されますが、正課外活動については、認定申請が必要となる場合があります。申請方法はプログラム毎に案内します。
- ・ 地域協創マイレージの取得状況については「アイフォリオ」で確認することができますので、随時活用してください。

#### (2) 認定基準

総取得マイル数に応じ、ブロンズ、シルバー、ゴールドの3段階で認定します。

ランク	正課教育		正課外活動	総取得マイル数
	単位数（必修・コア）	単位数（選択）		
ブロンズ	必修2、コア2 （200マイル）	専門2 （100マイル）	100マイル	400マイル
シルバー	必修2、コア4 （300マイル）	教養2、専門2 （200マイル）	300マイル	800マイル
ゴールド	必修2、コア8 （500マイル）	教養2、専門2 （200マイル）	500マイル	1200マイル

#### 4. 履修モデル

- ・ イーハトーヴ協創コースを受講する学生に対し、カリキュラムデザインの参考としてもらうとともに、コースの認知度や有用性を図りたい個別のキャリア像を意識した履修モデルを複数提示します。
- ・ 履修モデルはあくまでも参考提示であり、学生はコースに指定する科目を自由に受講することが可能ですので、履修の参考としてください。

なお、専門科目については、原則、所属する学部の科目を受講してください。

各履修モデルの詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

#### 5. 履修方法および開設授業科目

イーハトーヴ協創コースの履修については、本冊子及び時間割を参考にし、大学からのお知らせ、アイアシスタントおよび地域協創教育課（学生センターB棟）の掲示等に注意して、間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については、当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部、学科、課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や、年度により開設しない科目があるので注意してください。

#### 6. 本件担当

地域協創教育センター（学生センターB棟1階）

<https://www.iwate-u.ac.jp/rcec/ihatov-course.html>



# 関係法規等

## 岩手大学諸規則

1. 国立大学法人岩手大学学則
2. 国立大学法人岩手大学大学院学則
3. 岩手大学教養教育規則
4. 岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則
5. 岩手大学における在学期間の特例に関する規則
6. 岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する規則
7. 岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する申し合わせ
8. 岩手大学転学部に関する規則
9. 岩手大学転学科及び転課程取扱要項
10. 岩手大学編入学取扱規則
11. 岩手大学編入学生の教養教育科目及び共通教育科目履修基準
12. 岩手大学再入学取扱規則
13. 岩手大学研究生規則
14. 岩手大学科目等履修生規則
15. 岩手大学外国人留学生規則
16. 成績評価基準について
17. 気象警報等の発令時等における授業等の取扱いに関する申合せ

## 関係法令（e-Gov 法令検索にリンク）

1. 日本国憲法
2. 教育基本法
3. 学校教育法
4. 教育職員免許法
5. 教育職員免許法施行規則
6. 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律